

小丸川水系河川整備基本方針

小丸川水系の流域及び河川の概要（案）

令和 年 月 日

国土交通省 水管理・国土保全局

小丸川水系河川整備基本方針 検討資料

【流域及び河川の概要】

目次

第1章	流域の自然状況	1- 1
1- 1	流域及び河川の概要	1- 1
1- 2	地 形	1- 2
1- 3	地 質	1- 3
1- 4	気象・気候	1- 4
第2章	流域及び河川の自然環境	2- 1
2- 1	流域の自然環境	2- 1
2- 2	河川及びその周辺の自然環境	2- 3
2- 3	特徴的な河川景観及び文化財等	2-18
2- 4	自然公園等の指定状況	2-28
第3章	流域の社会状況	3- 1
3- 1	土地利用	3- 1
3- 2	人 口	3- 2
3- 3	産業経済	3- 3
3- 4	交 通	3- 4
第4章	水害と治水事業の沿革	4- 1
4- 1	既往洪水の概要	4- 1
4- 2	治水事業の沿革	4- 6
第5章	水利用の現状	5- 1
5- 1	水利用の変遷と現状	5- 1
5- 2	渇水被害の概要	5- 3
第6章	河川の流況と水質	6- 1
6- 1	河川流況	6- 1
6- 2	河川水質	6- 2
第7章	河川空間の利用状況	7- 1
7- 1	河川の利用状況	7- 1
第8章	河道特性	8- 1
第9章	河川管理の現状	9- 1
9- 1	河川管理区間	9- 1
9- 2	河川管理施設	9- 2
9- 3	水防体制	9- 3
9- 4	危機管理の取り組み	9- 5
第10章	地域との連携	10- 1
10- 1	地域連携を巡る動き	10- 1

第 1 章 流域の自然状況

1-1 流域及び河川の概要

小丸川はその源を宮崎県東臼杵郡椎葉村三方岳（標高 1,479m）に発し、山間部を南東に流下し、渡川等を合わせながら木城町の平野部を流下した後、高鍋町に入り切原川を合流して日向灘に注ぐ、幹川流路延長 75 km、流域面積 474km² の一級河川である。

その流域は、宮崎県の中央部に位置し、関係市町村数は 2 市 4 町 1 村におよび、下流部の狭い平野部には高鍋町等の主要都市を有している。流域の関係市町村の人口は昭和 55 年（1980 年）と令和 2 年（2020 年）を比較すると約 16.6 万人から約 13.6 万人に減少し、高齢化率は 10.9%から 35.3%に大きく変化している。流域の土地利用は、山地が約 87%、水田畑地等が約 10%、宅地等が約 3%となっている。

沿川には、北九州市と鹿児島市を結ぶ東九州地域唯一の主要幹線である国道 10 号や JR 日豊本線等の基幹交通施設に加え、東九州自動車道の整備も進み、高鍋 I C が完成する等、交通の要衝となっている。また、上流の山間部では木材、シイタケ等の林業を中心とした産業のほか、数々の神話や豊かな自然環境を基とした観光産業が盛んで、中下流の平野部では畜産を中心とした農業や、酒造業等が営まれ、この地域の社会・経済・文化の基盤を成している。さらに照葉樹林の天然林が群生する尾鈴県立自然公園等の豊かな自然環境に恵まれていることから、本水系の治水・利水・環境についての意義は極めて大きい。



図 1-1 小丸川水系流域図

1-2 地形

流域の地形は、三方岳や清水岳等の日向山地のほぼ中央部を源に尾鈴山と空野山に挟まれた急峻な溪谷が形成され、下流部には狭い沖積平野が広がっている。

河床勾配は、上流部で約 1/100 程度、中流部は約 1/600 程度と急流河川の様相を呈し、狭い平野部である下流部は約 1/2,000 程度と比較的緩勾配となっているものの全体的に急流河川の様相を呈している。

なお、中流部から下流は築堤区間となっており、急流部を一気に流下した洪水がひとたび氾濫すると甚大な被害が発生する。

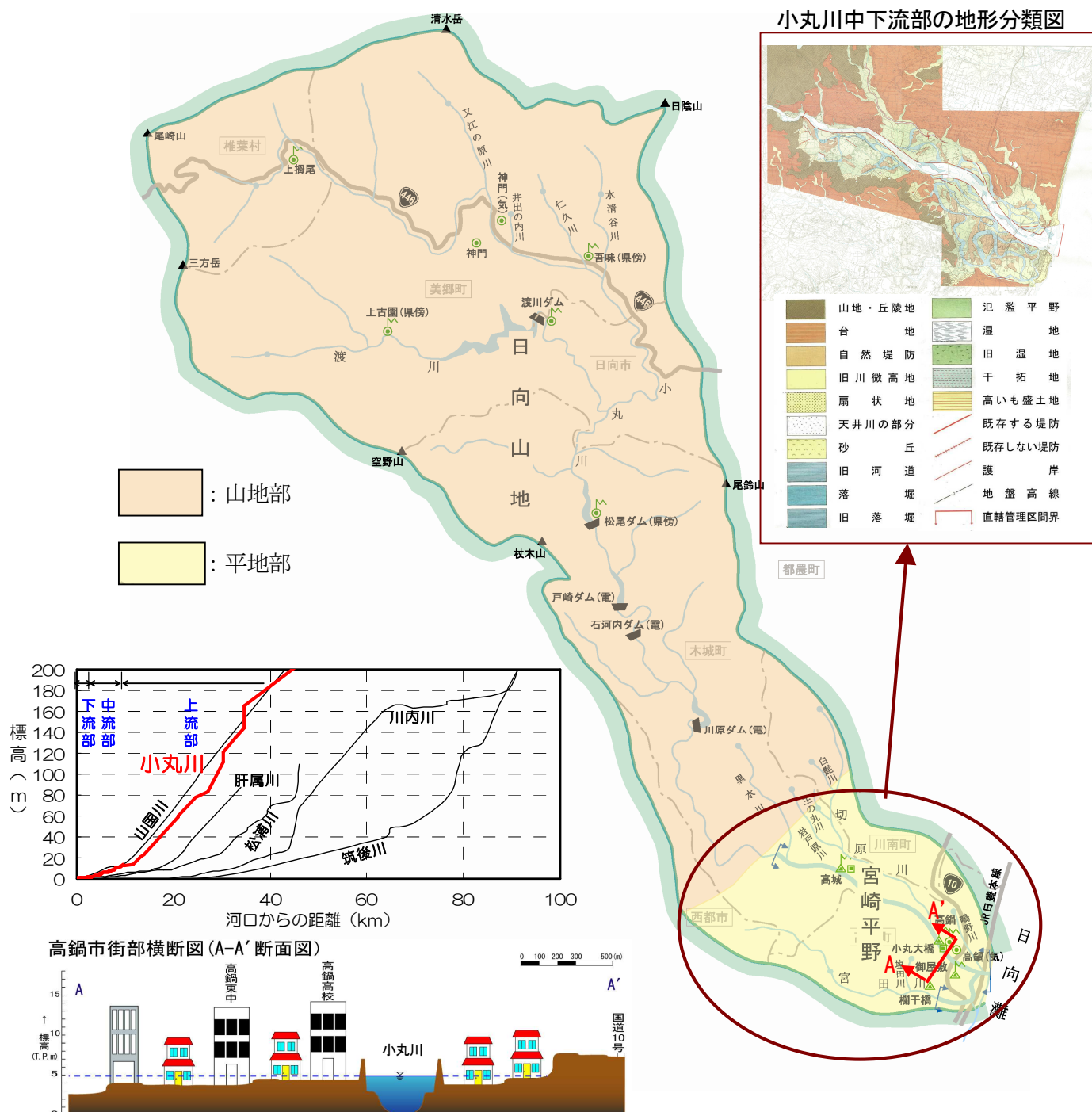


図 1-2 小丸川流域地形図

1-3 地 質

流域の地質は、上流部では中生界から古第三紀に属する四万十累層群からなり、侵食の進んだ険しい谷をなしている。中流部では中生層になる谷を流れ、木城町南部で沖積地に入る。下流部では、周辺の洪積台地と共に、宮崎県中部の沖積平野を形成している。

なお、四万十累層群は、形成時の圧縮・変形により割れ目が発達している場合が多く、崩壊しやすい地質で土砂供給が多い。

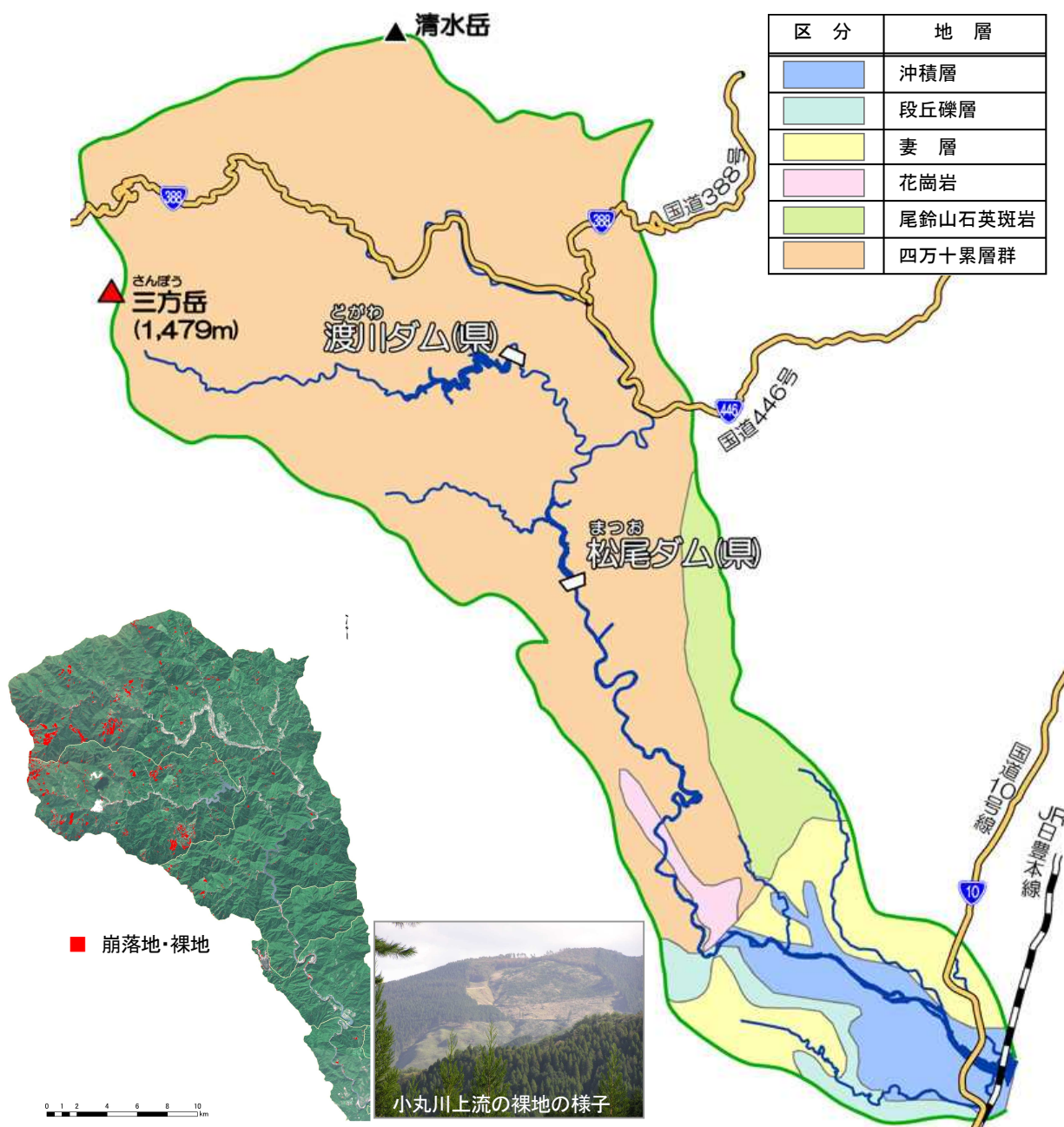


図 1-3 小丸川流域地質図

1-4 気象・気候

小丸川流域は、全国的にも多雨の地域であり、上流部は山地型の気候区に属し、下流部は南海型気候区に属する。

年平均降水量は約 3,000 mm で、全国平均降水量 1,700mm の約 1.8 倍であり、主要洪水の要因の約 90% が台風によるものである。また、中下流の平地部に比べ、上流の山地部は降雨量が多い。

小丸川流域の年平均気温は、上流山地部の^{みかど}神門（気）で約15℃、下流平地部の高鍋（気）で約17℃ と全般的に温暖な地域である。

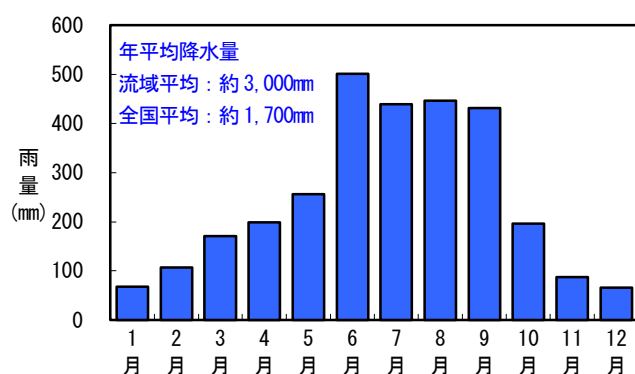


図 1-4 月別平均降水量
(昭和 60 年(1985)～令和 3 年(2021)の平均)

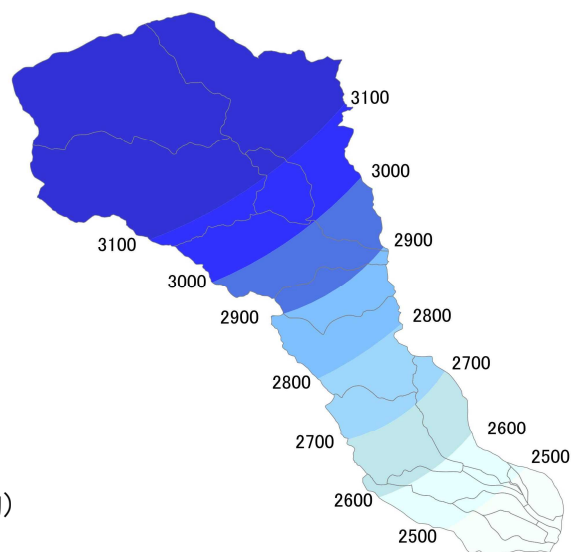


図 1-5 年間降水量分布図
(昭和 60 年(1985)～令和 3 年(2021)の平均)

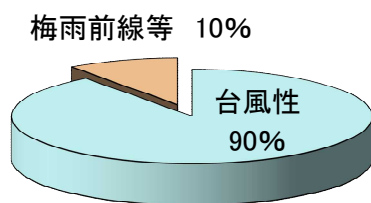


図 1-6 主要洪水の要因

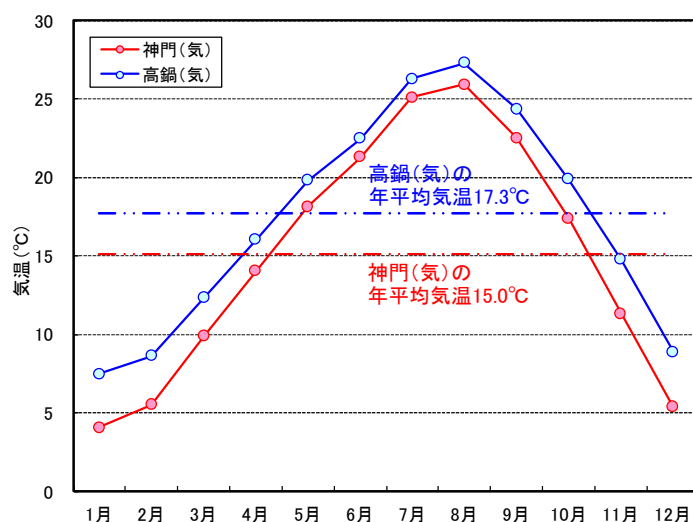


図 1-7 代表地点の月別平均温度
(平成 25 年(2013)～令和 4 年(2022)の平均)
出典) 気象庁ホームページより

第2章 流域及び河川の自然環境

2-1 流域の自然環境

小丸川流域は、宮崎県の中央部に位置し、高鍋町、木城町、美郷町等の2市4町1村にまたがる。流域面積474 km²のうち森林面積は420 km²を有し国有林が約3割を占め、その内の半分が天然林の照葉樹林で占められている。その代表的なものとして檜葉照葉樹林、檜葉ブナ林域の自然植生、尾鈴山西麓の照葉樹林等が挙げられる。さらに、貴重な植物群落として、尾鈴山のツツジ科植物群落、大瀬内谷のコウヤマキ林、岩淵大池のオニバス自生地、鬼が久保の湿地植生、小丸川河口の塩沼植物群落などが小丸川流域内に点在している。

小丸川流域の自然環境は、河川環境の状況より、源流から比木橋付近までの上流域と比木橋付近から小丸川感潮区間までの中流域、感潮区間である下流域の3流域に区分することができる。

源流付近の三方岳、清水岳周辺の山地には、スギ・ヒノキ植林や、ブナ・ミズナラの広葉樹とモミ・ツガの針葉樹の混交した照葉樹林が広く分布している。

上流域は、河岸段丘により形成された美郷町と木城町の小平野を有し、渡川ダム、松尾ダム、戸崎ダム、石河内ダム、川原ダム等のダム群と、稚尾の滝、祇園滝等の多くの瀑布群を交えながら流下し、河岸は山付きの自然河岸を形成している。流域の一部が尾鈴県立公園の指定を受け、ツクシアケボノツツジ、ウラジロミツバツツジ、ツクシシャクナゲなどの自生地、カモシカ、ニホンザルの生息域、ニホンジカの生息域、ヤマドリ、クマタカ、ヤマセミ等の生息域が確認されており、豊かな自然環境に恵まれている。

中流域は、比木橋下流から河床勾配は小さくなり、周辺には、段丘の間に沖積作用による平地が広がり、本城町の市街地や田畑が存在する。河道内には瀬・淵と砂礫河原が連続し、竹鳩橋付近の高水敷部には、かつての流路の名残である「河跡湖」が点在し、ミツガシワ科のガガブタ、スイレン科のオグラコオホネ、ヒメコウホネ、アカバナ科のミズキンバイ、ノタヌキモ等の貴重な植物が自生する。この他、流域内の平地には、複数の湿地が点在し、「岩淵池」には県文化財として指定されているオニバスが自生している。

河跡湖内には、緩流域を好むドジョウ、ミナミメダカ、テナガエビ等の魚介類が採餌地、生息場所、避難場所として利用している。また、竹鳩橋下流に点在する瀬はアユの産卵場となっている。

鳥類では、コアジサシやツバメチドリなどが礫河原を、オオヨシキリがツルヨシ群落を営巣地として利用している。

下流域は、切原川合流点付近より下流が感潮区間で、周辺には高鍋町の市街地や田畑が広がる。河口部では、ヨシ群落のほか、ハマボウ、シオクグ、イセウキヤガラなどの塩沼地植生、コアマモなどの海性沈水草植物、アカメ、トビハゼ、モツゴ等の汽水性の魚類やニホンウナギ、ウグイ、オイカワ等の淡水魚も生育・生息している。



図 2-1 小丸川流域区分図

2-2 河川及びその周辺の自然環境

2-2-1 河川の環境特性

(1) 上流部の環境

①【山間地蛇行区間】(源流三方岳～比木橋 10.2 km)

源流から比木橋付近までの上流部のうち美郷町付近は、河岸段丘や樹林地の山間部を蛇行しながら流下する。尾鈴火成岩や堆積岩の四万十層群を削り深い峡谷が形成され、流路は侵食の進んだ急峻な溪谷をなし、河岸は岩盤が露出している。当区間の河道幅は狭く、高水敷のない単断面形状を呈し、河床勾配は1/100程度で、河床材料は巨石、巨礫で構成されている。セグメントはMであり、5基のダムが断続的に貯水池を形成している。

尾鈴県立自然公園地域や、^{かしぼ}檜葉地区には、イチイガシ、タブノキ等を代表とするシイ・カシ、ブナの照葉樹林が群生する。また、松尾ダム周辺左岸の急斜面には、^{おすずりんぼくいでんしげんぼんりん}尾鈴林木遺伝資源保存林が位置し、天然林で樹齢170年生のアカマツ、コウヤマキ、イチイガシ、タブノキ等の針広混交林となっている。

水際にはツルヨシ群落、オギ群落が優先し、河岸にはアラカシ林、モウソウチク・マダケの植林、スギ・ヒノキの植林が山付き林として水域と連続している。

ツルヨシ群落、オギ群落は、ウグイ、アユ等の避難場所として、カモ類、サギ類等のねぐら、採餌場として利用されている。カジカガエルが水際に生息している。

連続する瀬と淵には、アユ、サクラマス（ヤマメ）等が生息し、淵にはニホンウナギ、カマキリ（アユカケ）、ウグイが生息している。

渓流域に生息するカワセミ、アカショウビンや、コサギ、アオサギといったサギ類が採餌地として頻繁に水辺を利用し、主に魚類を捕食する。マガモ、ヒドリガモなどのカモ類は付着藻類などを食物とし、ダム湖などの静水域を休息地として利用している。

山付き林は、アラカシ林、モウソウチク・マダケの植林、スギ・ヒノキの植林で構成され、カワセミ、アカショウビンには魚付き林として利用され、ヒヨドリ、ホオジロ、ブッポウソウは採餌場、ねぐらとして利用されている。また、ジネズミ、タヌキ等の小動物の生息地ともなっている。

ダム湖周辺の樹林は、大半がスギ・ヒノキの人工林であるが、シイ・カシ、ブナの照葉樹林も各所に分布している。ダム湖水域には、ニホンウナギ、ゲンゴロウブナ、オイカワ、コイ、サクラマス（ヤマメ）が生息している。特にニホンウナギ、サクラマス（ヤマメ）は上小丸川漁業協同組合において毎年定期的に稚魚が放流されている。

この他、鳥類では、水辺周辺にゴイサギ、コサギ、オシドリ、オナガガモ、カルガモ、カイツブリ等が、陸域の山腹の樹林地にはヤマドリ、キジ、メジロ、ウグイス、ホトトギス、コゲラ、ヤマガラ、モズ、ツグミ等が生息している。

また、哺乳類では、イノシシ、アナグマ、ニホンジカ、ムササビ、ヤマネ、テン、ニホンイタチ、アカネズミ、ヒメネズミ等が生息している。



■瀬と淵

(写真：国土交通省
宮崎河川国道事務所)



■ツルヨシ群落

(写真：国土交通省
宮崎河川国道事務所)



■河畔林

(写真：国土交通省
宮崎河川国道事務所)



■ダム湖

(写真：農林水産省
九州森林管理局 HP)



【サクラマス（ヤマメ）
（サケ目サケ科）】※1



【カマキリ（アユカケ）
（スズキ目カジカ科）】※2

写真

※1 川の生物図典
（編集：財団法人リバーフロント編集センター）

※2 河川水辺の国勢調査
（国土交通省宮崎河川国道事務所）



【カワセミ(ブッポウソウ目カワセミ科)】※2



【アカショウビン
(ブッポウソウ目カワセミ科)】※1



【ヒメネズミ(ネズミ目ネズミ科)】※1

写真

- ※1 川の生物図典
(編集：財団法人リバーフロント編集センター)
- ※2 河川水辺の国勢調査
(国土交通省宮崎河川国道事務所)

②中流部の環境【平地部区間】（比木橋 10.2 km～切原川合流点付近 3.2km）

日向山地を出て平野部にさしかかる比木橋より下流の中流部は、河床勾配も緩やかになる。周辺は段丘の発達した平地が広がり、瀬と淵、砂礫河原が連続する。川幅は 150m～300m 程度、河床勾配は 1/600 程度、河床材料は礫、砂礫からなり、セグメントは 2-1 である。

高城橋下流区間では、河道幅、高水敷幅とも広く緩やかな蛇行形状を成す。

また、過去からの小丸川の流路の変化により、竹鳩橋付近の高水敷には河跡湖が点在している。

水辺ではツルヨシ群落が優先し、河岸、高水敷にはヤナギ低木林、モウソウチク等の河畔林が群生している。ツルヨシはオオヨシキリの生息場として利用されるとともに、ツバメやセッカなどの採餌場としても利用されている。河畔林は、カワラヒワの繁殖地として利用されるとともに、メジロやホオジロ等の採餌場として利用されている。

瀬にはオイカワ、アユが、淵にはウグイ、カマキリ（アユカケ）、ニホンウナギ等の魚類が生息している。

ツルヨシ群落内に形成される流れの緩やかな水域はギンブナ、ドジョウ、ミナミメダカなどの採餌地や避難場所、生息場所などに利用されている。

竹鳩橋下流の瀬は、アユの産卵場となっている。高城橋上流では小丸川漁業協同組合によりアユ、ニホンウナギの放流が行われている。

砂礫河原には、タテヤマヨシウンカなどの陸上昆虫が生息し、イカルチドリ、コアジサシが営巣しているほか、カワラハハコが生育している。

両生類、は虫類及び哺乳類では、トノサマガエル、ニホンアマガエル、ニホンカナヘビ、ノウサギ、カヤネズミが生息している。

昆虫類では、カゲロウ類、ゲンジボタルが 9/600 で合流する黒水川周辺で確認され、初夏になるとホタルの乱舞がみられる。

竹鳩橋下流付近には河跡湖^{かせきこ}と呼ばれる湿地帯が多く点在する。

かつての流路の名残である河跡湖には、その周辺をヤナギやメダケ・マダケの河畔林で囲まれ、陸域と水域との移行帯にはツルヨシ群落やウキヤガラ・マコモの群落が形成されている。湖内にはミツガシワ科のガガブタ、スイレン科のオグラコウホネ、ヒメコウホネ、ミズキンバイ、ノタヌキモ等の貴重な植物が繁茂している。

水域には、緩流域に棲むギンブナ、ドジョウ、ミナミメダカ、ヨシノボリ類、コイ、カマツカ、ゴクラクハゼ、ウグイ、オイカワ、テナガエビ等の魚介類が採餌地、生息場所、避難場所として利用し、これらの魚類を餌とするニホンウナギ、ナマズ等も生息している。また、両生・は虫類のヌマガエル、トノサマガエル、ニホンスッポン、ニホンイシガメ等も生息している。

陸域では、ヨシやイネ科植物を棲みかとするタテヤマヨシウンカ、モンキアワフキや、水辺植生の飛来するイトトンボ科、ウスバキトンボ等が生息している。鳥類では、ツルヨシ群落を営巣地とするオオヨシキリや水際植生付近で飛翔する昆虫類を捕食するツバメ、セッカ

が飛来する。



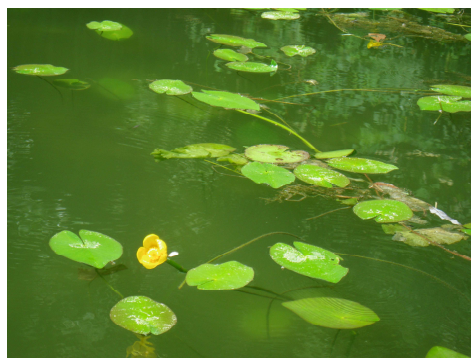
河跡湖内の状況 ※2



河跡湖の全景 ※2



【ガガブタ(ミツガシワ科)】※2



【オグラコウホネ(スイレン科)】※2



【ノタヌキモ(タヌキモ科)】※2

写真

- ※1 川の生物図典
(編集：財団法人リバーフロント編集センター)
- ※2 河川水辺の国勢調査
(国土交通省宮崎河川国道事務所)



【小丸川中流部】

（比木橋付近・黒水川合流点上流付近）
山間地より解放され河岸段丘の趣を成す。
扇状地形の中を緩やかに蛇行する河川形状
を呈している。

（写真：国土交通省
宮崎河川国道事務所）



【小丸川中流部（高城橋下流付近）】

河道は大きく広がり、緩やかに流下している。
広い高水敷は採草地として利用されている。

（写真：国土交通省
宮崎河川国道事務所）



■河畔林

（写真：国土交通省
宮崎河川国道事務所）



■瀬（5k400 付近）

（写真：国土交通省
宮崎河川国道事務所）



■砂礫河原（5k200 付近）

コアジサシの営巣地となっている。

（写真：国土交通省
宮崎河川国道事務所）



■カワラハハコ生育地（5k000 付近）

（写真：国土交通省
宮崎河川国道事務所）



【アユ(サケ目アユ科)】※2



【ミナミメダカ(ダツ目メダカ科)】※2



【コアジサシ(チドリ目カモメ科)】※2



【トノサマガエル
(無尾目アカガエル科)】※2



【カヤネズミ(ネズミ目ネズミ科)】※2

写真

- ※1 川の生物図典
(編集：財団法人リバーフロント編集センター)
- ※2 河川水辺の国勢調査
(国土交通省宮崎河川国道事務所)

③下流部の環境【感潮区間】（切原川合流点付近 3.2 km～河口 0.0km）

小丸川の下流部は高鍋町の市街地を流下し、日向灘に注ぐ。河口より 3.2km までは感潮区間で、川幅は 200m 程度、河床勾配は 1/2200 程度、河床材料は砂・砂礫で構成され、セグメントは 2-1 の区間である。

河口部の入り江には、塩生植物のハマボウ、シオクグ、イセウキヤガラ等が多数群生している。ワンドには沈水植物のコアマモが生育し、コアマモ内は、アカメや多くの魚類の産卵場、生息場、隠れ場となっており、魚類にとって重要なハビタットとなっている。

汽水域には、トビハゼ、クボハゼ、モツゴなどの汽水性の魚類がゴカイ類などの底生動物を捕食している。また、ニホンウナギ、ウグイ、オイカワ、カマキリ（アユカケ）等の淡水魚も生息している。

甲殻貝類では、ヤマトシジミ、イシマキガイ、モクズガニ、アシハラガニ、ゴカイ、ミナミテナガエビ等が確認されている。

砂州上部にはヨシ群落が形成され、底生動物などの生息環境の場として利用されている。重要種のタコノアシも確認されている。

水際の泥質部にはゴカイ類、ニッポンドロソコエビなどの底生動物は藻類などを食物として生息する。チゴガニ、ヤマトオサガニなどのカニ類は河口部のヨシ群落内に穴居し、生息する。

河口ではマガモなどのカモ類が、水草等を採餌し、集団越冬地としても利用する。

チュウヒ、ミサゴは、砂州・ヨシ原を生息場とするシギ・チドリ類等の小鳥を捕食している。

高鍋大橋では小丸川漁業協同組合により、ニホンウナギの放流が行われている。

高水敷に生育するツルヨシ群落、チガヤにはコバネイナゴ等の昆虫やヌマガエル等の両生類が生息し、それらを採餌とするアカネズミの哺乳類も生息している。



【小丸川下流部（河口付近）】

小丸川下流部は、高鍋平野の水田地帯と左岸市街地との間を緩やかに流下している。河口部は、太平洋に直接注いでいるものの大規模な砂州が発達し、入江・ワンドが形成されている。

（写真：国土交通省
宮崎河川国道事務所）



（写真：国土交通省
宮崎河川国道事務所）



（写真：国土交通省
宮崎河川国道事務所）



【ハマボウ群落(アオイ科)】※2



【イセウキヤガラ
(カヤツリグサ科)】※2



【コアマモ(アマモ科)】※1



【タコノアシ(タコノアシ科)】※2



【トビハゼ(スズキ目ハゼ科)】※2

写真

- ※1 川の生物図典
(編集：財団法人リバーフロント編集センター)
- ※2 河川水辺の国勢調査
(国土交通省宮崎河川国道事務所)



【アカメ(アカメ科アカメ属)】※2



【クボハゼ(スズキ目ハゼ科)】※2



【モツゴ(コイ目コイ科)】※2



【ヤマトシジミ
(マルスダレガイ目シジミ科)】※1



【アシハラガニ
(十脚目短尾下目モクズガニ科)】※2

写真

- ※1 川の生物図典
(編集：財団法人リバーフロント編集センター)
- ※2 河川水辺の国勢調査
(国土交通省宮崎河川国道事務所)

2-2-2 小丸川における注目すべき種

これまで小丸川水系で実施された河川水辺の国勢調査結果等に基づき、学術上の重要性及び希少性の観点から、下表に示す選定基準に該当する種を重要種として選定した。小丸川水系における河川水辺の国勢調査で確認された重要種を以下に示す。

表 2-1 重要種選定基準

文献 No.	区分	所管 管理者	年度	内容	選定対象 〈 〉 内略号
1	文化財保護法 文化財保護条例	文化庁 都道府県	1950	学術上価値の高い動植物等のうち重要なものを天然記念物に指定	国指定天然記念物〈国天〉 都道府県指定天然記念物 〈県天〉 市町村指定天然記念物 〈市町天〉
2	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律	環境庁	1993	絶滅のおそれのある野生動植物種を指定し、捕獲、譲渡、輸出入等の規制により保護	国内稀少野生動物種〈絶滅〉 (対象：植物、魚類、鳥類、両生類、爬虫類、哺乳類、昆虫類)
3	環境省レッドリスト2020	環境省	2020	哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物（クモ形類、甲殻類等）、植物（維管束植物）、植物（維管束植物以外：蘚苔類、藻類、地衣類、菌類）を対象	絶滅〈EX〉 野生絶滅〈EW〉 絶滅危惧ⅠA類〈CR〉 絶滅危惧ⅠB類〈EN〉 絶滅危惧Ⅰ類〈CR+EN〉 絶滅危惧Ⅱ類〈VU〉 準絶滅危惧〈NT〉 情報不足〈DD〉 絶滅のおそれのある地域個体群〈LP〉
4	三訂・宮崎県版レッドデータブック	宮崎県	2022	宮崎県における絶滅のおそれのある野生生物、植物群落を選定	絶滅種〈Ex-r, Ex-g, Ex-d〉 野生絶滅〈Ex-r, Ex-g, Ex-d〉 絶滅危惧ⅠA類 〈CR-r, CR-g, CR-d〉 絶滅危惧ⅠB類〈EN-r, EN-g〉 絶滅危惧Ⅱ類〈VU-r, VU-g〉 準絶滅危惧〈NT-r, NT-g〉 情報不足〈DD-1, DD-2〉 その他保護上重要な種 〈OT-1, OT-2〉
5	干潟の絶滅危惧動物図鑑－海岸ベントスのレッドデータブック	日本ベントス学会	2012	干潟の希少動物・絶滅危惧動物	絶滅危惧Ⅰ類〈CR+EN〉 絶滅危惧ⅠA類〈CR〉 絶滅危惧ⅠB類〈EN〉 絶滅危惧Ⅱ類〈VU〉 準絶滅危惧〈NT〉 情報不足〈DD〉 地域個体群〈LP〉

表 2-2 小丸川的重要種一覧(1)

区分	科名	種名	重要種の選定基準				
			1	2	3	4	5
魚類	ウナギ科	ニホンウナギ			EN	EN-g	
	コイ科	モツゴ				DD-2	
	ドジョウ科	ドジョウ			NT	NT-g	
	ナマズ科	ナマズ				NT-g	
	ヨウジウオ科	ヨウジウオ				VU-g	
	メダカ科	ミナミメダカ			VU	CR-r	
	アカメ科	アカメ			EN	VU-g	
	クロサギ科	ヤマトイトヒキサギ				NT-g	
	カジカ科	カマキリ(アユカケ)			VU	NT-g	
	カワアナゴ科	カワアナゴ				NT-g	
	ハゼ科	イドミミズハゼ			NT	DD-2	
	ハゼ科	ヒモハゼ			NT	NT-g	
	ハゼ科	シロウオ			VU	NT-g	
	ハゼ科	チワラスボ			EN		
	ハゼ科	チワラスボ属の一種C(コガネチワラスボ)※			EN		
	ハゼ科	トビハゼ			NT	VU-g	
	ハゼ科	アシシロハゼ				NT-g	
	ハゼ科	マサゴハゼ			VU		
	ハゼ科	ルリヨシノボリ				NT-g	
	ハゼ科	スミウキゴリ				NT-g	
	ハゼ科	ウキゴリ				NT-g	
	ハゼ科	クボハゼ			EN	VU-r	
植物	スイレン科	オグラコウホネ			VU	CR-r	
	スイレン科	サイコクヒメコウホネ			VU	EN-r	
	スイレン科	ヒツジグサ				CR-g	
	トチカガミ科	クロモ				VU-g	
	トチカガミ科	セキシウモ				VU-g	
	アマモ科	コアマモ				NT-g	
	ラン科	シラン			NT	NT-r	
	ラン科	ニラバラン				NT-r	
	クサスギカズラ科	キジカクシ				CR-r	
	ガマ科	ヤマトミクリ			NT	EN-r	
	イグサ科	ホソイ				VU-r	
	カヤツリグサ科	コウキヤガラ				VU-g	
	カヤツリグサ科	イセウキヤガラ				VU-r	
	カヤツリグサ科	キノクニスゲ			NT	VU-g	
	カヤツリグサ科	シチトウイ				NT-g	
	カヤツリグサ科	ヒメガヤツリ				CR-r	
	カヤツリグサ科	シオカゼテンツキ				EN-r	
	カヤツリグサ科	イソテンツキ				EN-r	
	キンポウゲ科	タガラシ				NT-g	
	タコノアシ科	タコノアシ			NT	NT-g	
	アリノトウグサ科	ホザキノフサモ				NT-g	
	アリノトウグサ科	フサモ				CR-r	
	マメ科	ヒメノハギ				VU-r	
	バラ科	カワラサイコ				EN-r	
	バラ科	コジキイチゴ				VU-r	
	ウリ科	ゴキツル				NT-g	
	アマ科	マツバニンジン			CR		
	ミソハギ科	ミズマツバ			VU		
	アカバナ科	ミズキンバイ			VU	CR-g	
	ノボタン科	ヒメノボタン			VU	NT-g	
	アオイ科	ハマボウ				NT-g	
	アブラナ科	コイヌガラシ			NT	VU-g	
	タデ科	ヒメタデ			VU		
	タデ科	ナガバノウナギツカミ			NT	CR-r	
	ヒユ科	ハママツナ				CR-r	

表 2-2 小丸川の重要種一覧(2)

区分	科名	種名	重要種の選定基準				
			1	2	3	4	5
植物	キョウチクトウ科	イケマ				NT-r	
	キョウチクトウ科	ガガイモ				NT-r	
	ヒルガオ科	マメダオシ			CR	DD-1	
	オオバコ科	カワヂシャ			NT		
	シソ科	ミズネコノオ			NT	VU-g	
	シソ科	ミズトラノオ			VU	CR-r	
	シソ科	ミゾコウジュ			NT	NT-g	
	ハエドクソウ科	スズメノハコベ			VU	VU-g	
	ハマウツボ科	ゴマクサ			VU	NT-g	
	ハマウツボ科	オカウツボ				CR-d	
	タヌキモ科	ノタヌキモ			VU	CR-r	
	タヌキモ科	イヌタヌキモ			NT		
	タヌキモ科	ミカワタヌキモ			VU	CR-r	
	クマツヅラ科	クマツヅラ				NT-g	
	ミツガシワ科	ガガフタ			NT	EN-g	
	キク科	カワラハハコ				CR-r	
	キク科	ホソバオグルマ			VU	VU-r	
	キク科	ハマニガナ				NT-g	
	キク科	オナモミ			VU	EX-g	
	セリ科	ヒュウガトウキ			VU	NT-g	
	セリ科	ハマボウフウ				NT-g	
鳥類	キジ科	ウズラ			VU	CR-d	
	カモ科	オシドリ			DD		
	サギ科	ヨシゴイ			NT	VU-r	
	サギ科	チュウサギ			NT		
	サギ科	クロサギ				NT-r	
	クイナ科	クイナ				NT-r	
	クイナ科	ヒクイナ			NT	NT-g	
	チドリ科	イカルチドリ				NT-r	
	チドリ科	シロチドリ			VU	VU-g	
	チドリ科	メダイチドリ		国際			
	シギ科	タカブシギ			VU	NT-r	
	シギ科	ハマシギ			NT	NT-g	
	ツバメチドリ科	ツバメチドリ			VU	VU-r	
	カモメ科	オオセグロカモメ			NT		
	カモメ科	コアジサシ		国際	VU	EN-g	
	ミサゴ科	ミサゴ			NT		
	タカ科	チュウヒ		国内	EN	EN-r	
	タカ科	ハイロチュウヒ				VU-r	
	タカ科	ハイタカ			NT	NT-r	
	タカ科	オオタカ			NT	NT-r	
	フクロウ科	フクロウ				VU-g	
	フクロウ科	アオバズク				VU-g	
	フクロウ科	コミズク				VU-r	
	ハヤブサ科	ハヤブサ		国内	VU	NT-r	
	サンショウクイ科	サンショウクイ			VU		
	ヒタキ科	ルリビタキ				DD-2	
	ホオジロ科	ホオアカ				OT-1	
両生類	イモリ科	アカハライモリ			NT		
	アカガエル科	トノサマガエル			NT	NT-g	
爬虫類	イシガメ科	ニホンイシガメ			NT	VU-r	
	スッポン科	ニホンスッポン			DD	DD-2	
陸上昆虫類	アオイトトンボ科	コバネアオイトトンボ			EN	CR-r	
	イトトンボ科	コフキヒメイトトンボ				NT-r	
	イトトンボ科	ベニイトトンボ			NT	EN-r	
	トンボ科	アキアカネ				NT-g	
	トンボ科	マイコアカネ				VU-g	

表 2-2 小丸川の重要種一覧(3)

区分	科名	種名	重要種の選定基準				
			1	2	3	4	5
陸上昆虫類	トンボ科	ヒメアカネ				NT-g	
	ヒバリモドキ科	ハマスズ				NT-g	
	ハナカメムシ科	クロアシブトハナカメムシ			NT		
	シジミチョウ科	ゴイシシジミ				NT-g	
	シジミチョウ科	シルビアシジミ			EN	VU-r	
	タテハチョウ科	コムラサキ				NT-g	
	シロチョウ科	ツマグロキチョウ			EN	NT-g	
	シロチョウ科	ツマベニチョウ				NT-r	
	ヤガ科	ギンモンアカヨトウ			VU		
	オサムシ科	ウミミズギワゴミムシ			NT		
	オサムシ科	タナカツヤハネゴミムシ			DD		
	オサムシ科	ウミホソチビゴミムシ			NT		
	ハンミョウ科	コハンミョウ				NT-g	
	ゲンゴロウ科	セスジゲンゴロウ				EN-r	
	ゲンゴロウ科	ホソセスジゲンゴロウ				NT-r	
	ゲンゴロウ科	チンメルマンセスジゲンゴロウ				EN-g	
	ゲンゴロウ科	コガタノゲンゴロウ			VU	OT-1	
	ゲンゴロウ科	シマゲンゴロウ			NT	NT-g	
	ゲンゴロウ科	ケシゲンゴロウ			NT	NT-g	
	ゲンゴロウ科	シャープツブゲンゴロウ			NT	VU-g	
	ミズスマシ科	オオミズスマシ			NT	EN-g	
	ミズスマシ科	コミズスマシ			EN	CR-g	
	ミズスマシ科	ヒメミズスマシ			EN	EN-g	
	ミズスマシ科	ミズスマシ			VU	CR-g	
	コガシラミズムシ科	マダラコガシラミズムシ			VU	EN-r	
	ホソガムシ科	ヤマトホソガムシ			NT	DD-2	
	ガムシ科	ガムシ			NT	NT-g	
	ガムシ科	シジミガムシ			EN	VU-g	
	セイボウ科	オオセイボウ			DD		
	スズメバチ科	ヤマトアシナガバチ			DD		
	クモバチ科	アオスジクモバチ			DD		
底生動物	アマオブネガイ科	ヒロクチカノコガイ			NT		NT
	フネアマガイ科	ベッコウフネアマガイ			NT		
	トゲカワニナ科	タケノコカワニナ			VU	VU-g	NT
	カワザンショウガイ科	ヒナタムシヤドリカワザンショウガイ			NT		NT
	カワザンショウガイ科	ヨシダカワザンショウガイ			NT		NT
	オカミミガイ科	ナラビオカミミガイ			VU	VU-r	VU
	モノアラガイ科	モノアラガイ			NT	NT-g	
	ガンツキ科	ガタツキ			DD		
	シジミ科	ヤマトシジミ			NT	DD-2	NT
	シジミ科	マシジミ			VU	VU-g	
	マルスダレガイ科	アサリ				DD-2	
	ニッコウガイ科	テリザクラガイ			VU		
	シオサザナミ科	ハザクラガイ			NT	NT-g	NT
	シオサザナミ科	オチバガイ			NT	NT-g	NT
	ゴカイ科	イトメ					NT
	スナホリムシ科	ヒガタスナホリムシ			NT	VU-r	VU
	テナガエビ科	ヒラテナガエビ				NT-r	
	テナガエビ科	テナガエビ				NT-r	
	アナジャコ科	アナジャコ				NT-g	
	ワタリガニ科	アカテノコギリガザミ				NT-g	NT
	ベンケイガニ科	クロベンケイガニ				NT-g	
	ベンケイガニ科	アカテガニ				NT-g	
	ベンケイガニ科	ウモレベンケイガニ				CR-r	EN
	ベンケイガニ科	フタバカクガニ				NT-g	
	ベンケイガニ科	カクベンケイガニ				NT-g	
	ベンケイガニ科	ユビアカベンケイガニ					NT

表 2-2 小丸川の重要種一覧(4)

区分	科名	種名	重要種の選定基準				
			1	2	3	4	5
底生動物	ベンケイガニ科	ベンケイガニ				VU-g	VU
	モクズガニ科	ハマガニ				NT-g	NT
	モクズガニ科	アカイソガニ				NT-g	
	モクズガニ科	ヒメアシハラガニ				NT-g	NT
	モクズガニ科	アシハラガニ				NT-g	
	モクズガニ科	トゲアシヒライソガニモドキ					NT
	モクズガニ科	ミナミアシハラガニ				VU-r	NT
	モクズガニ科	ヒメヒライソモドキ				VU-r	
	モクズガニ科	タイワンヒライソモドキ				NT-g	NT
	モクズガニ科	トリウミアカイソモドキ				VU-r	NT
	モクズガニ科	タイワンオオヒライソガニ			DD	DD-2	DD
	ムツハアリアケガニ科	アリアケモドキ				NT-r	VU
	ムツハアリアケガニ科	カワスナガニ			NT	NT-g	
	コメツキガニ科	チゴガニ				NT-g	
	コメツキガニ科	コメツキガニ				NT-g	
	オサガニ科	ヒメヤマトオサガニ				NT-g	NT
	オサガニ科	ヤマトオサガニ				NT-g	
	スナガニ科	ハクセンシオマネキ			VU	NT-g	NT
	スナガニ科	シオマネキ			VU	CR-g	VU
	サナエトンボ科	オナガサナエ				NT-r	
	エソトンボ科	キロヤマトンボ			NT	EN-r	
	タイコウチ科	ヒメミズカマキリ				VU-r	
	ゲンゴロウ科	コガタノゲンゴロウ			VU	OT-1	
	ゲンゴロウ科	コシマゲンゴロウ				NT-g	
	ゲンゴロウ科	ケシゲンゴロウ			NT	NT-g	
	ゲンゴロウ科	ナガマルチビゲンゴロウ				VU-r	
	ミズスマシ科	オオミズスマシ			NT	EN-g	
	ミズスマシ科	ヒメミズスマシ			EN	EN-g	
	ミズスマシ科	ツマキレオナガミズスマシ			VU	EN-r	

①「文化財保護法」指定種（文化庁）

特別天然記念物(特天)、国または県指定、種または生息地指定(天然)

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」指定種（環境省）

国内希少野生動植物種(国内)、国際希少野生動植物種(国際)、緊急指定種(緊急)

③「環境省版レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)」掲載種（環境省 2020年）

絶滅危惧ⅠA類(CR) 絶滅危惧ⅠB類(EN) 絶滅危惧Ⅱ類(VU) 準絶滅危惧(NT) 情報不足(DD) 地域個体群(LP)

④「三訂・宮崎県版レッドデータブック」掲載種（宮崎県 2022年）

絶滅危惧ⅠA類(CR) 絶滅危惧ⅠB類(EN) 絶滅危惧Ⅱ類(VU) 準絶滅危惧(NT) 情報不足(DD) その他の保護上重要な種(OT)

EX-r: 県内では、もともと希であったものが、絶滅。

EX-g: 県内では、過去に広く分布、あるいは個体数が多かったと考えられるものが、絶滅。

EX-d: 県内で確認されていたもので、過去20年～50年以上信頼のおける情報がないもの。

EW-r: 県内では、もともと希であったものが、野生では絶滅。

EW-g: 県内では、過去に広く分布、あるいは個体数が多かったと考えられるものが、野生では絶滅。

EW-d: 県内で確認されていたもので、過去20年～50年以上信頼のおける情報がないもの。

CR-r: 県内では、もともと希であったものが、原則として、現在は1～2か所でのみ生息し、個体数も極めて少ない状態でかろうじて生き残っているもの。

CR-g: 県内では、過去に広く分布、あるいは個体数が多かったと考えられるものが、極度に減少して、原則として、1～3か所生息するか、あるいは個体数がほぼ5分の1以下に減少しているもの。

CR-d: それほど遠くない過去(20年～50年以内)の生息の確認情報があるが、その後信頼すべき調査が行われていないか、調査を行ったが未確認のため絶滅したかどうかの判断が困難なもの。

今後確認情報が得られなければ「絶滅(EX)」、あるいは「野生絶滅(EW)」に位置づけられるもの。

EN-r: 県内では、もともと希であったものが、原則として、現在は2～4か所でのみ生息し、個体数もかなり少ない状態で生き残っているもの。

EN-g: 県内では、過去に広く分布、あるいは個体数が多かったと考えられるものが、原則として、現在は3～5か所で生息するか、あるいは個体数がほぼ2分の1以下に減少しているもの。いずれの生息地でも、生息条件の悪化が継続しており、今後も継続的な減少が予想されるもの。

VU-r: 県内では、もともと希であったものが、原則として、現在は5か所以下で生息し、個体数も少ないもの。

VU-g: 県内では、過去に広く分布、あるいは個体数が多かったと考えられるものが、原則として、現在は10か所以下で生息するか、あるいは個体数がほぼ5分の4以下に減少しているもの。今後とも大幅に分布が狭まったり、さらなる個体数の減少が予想されるもの。

NT-r: 県内では、もともと希であったものが、分布域の一部において個体数が顕著に減少しているもの。

NT-g: 県内では、過去に広く分布、あるいは個体数が多かったと考えられるものが、分布域の一部において、生息条件の悪化により絶滅したが、若しくは生息面積の減少や個体数の顕著な減少が見られるもの。

DD-1: 県内における証拠標本や、信頼のおける記録があり、かつて生息していたと思われるが、現存するかどうかが判断できないもので、絶滅の可能性の考えられるもの。確認されれば「絶滅危惧ⅠA類」に位置付けられる可能性の高いもの。

DD-2: 県内では、現在明らかに生息しているが、評価するだけの情報が不足しているもの。

OT-1: 県内において、現在生息条件等が安定しているため「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素はないが、保護上重要と考えられるもの。

OT-2: 全県レベルでは重要性の高いものではないが、地域レベルでは保護上重要と考えられるもの。又は生息地が孤立している地域個体群で絶滅の恐れのあるもの。この場合は、種名に地域の名を冠して表現する。

⑤「干潟の絶滅危惧動物図鑑－海岸ペントスのレッドデータブック」掲載種（日本ペントス学会 2012年）

絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN) 絶滅危惧ⅠA類(CR) 絶滅危惧ⅠB類(EN) 絶滅危惧Ⅱ類(VU) 準絶滅危惧(NT) 情報不足(DD) 地域個体群(LP)

2-3 特徴的な河川景観及び文化財等

2-3-1 小丸川の歴史的環境

(1) 小丸川の歴史

小丸川の河川名が歴史に登場してくるのは今から約 300 年前である。それまでは、戦国時代に大友宗麟と島津義久が雌雄を決した攻防が「高城川の役」(天正六年、1578)と伝えられるように、薩摩藩の要衝高城(左岸 8K000 付近)の名をとって高城川と呼ばれていた。

その後、当地を治めた高鍋藩の高鍋藩拾遺本藩実録(宮崎県史料・第2巻・高鍋藩)によると、貞享二年(1684年)七月二十三日の小丸川井手等修築の記事に「小丸川高城瀬水垣所同藪村三所崩切原村出口崩持田村崩安蔵川除切場同村西川除持田村井手溝初七ヶ所人足壺万式千百四十人化飯米九十壺石壺斗壺升」とあるように小丸川の名が現れ、当年の洪水による小丸川災害復旧のため 12,140 人を動員して修築にあたったことが記録されている。

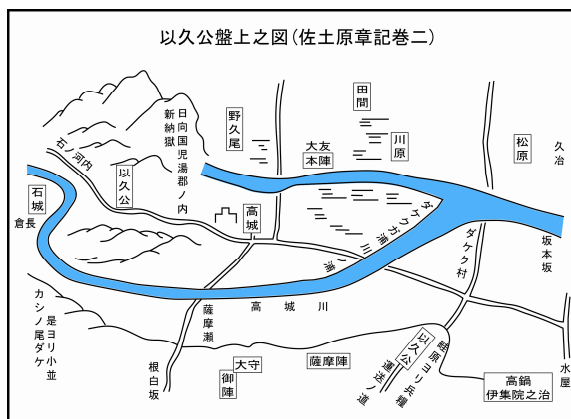
当時、高鍋藩の城下町には小丸川に通じる小丸小路があり、これが小丸川と接するところは現在も地名としての残る小丸出口(3K000 右岸付近)といわれ、交通の要である船行場として利用されていた。小丸のつく地名はこのほかに、小丸上、小丸下がある。

特に、小丸川下流域を治めた高鍋藩は、水害対策として川除け(水制)、土手(堤防)の工事を行ったことが高鍋藩の農政書に記載されている。これによると、高鍋藩では川除けを重視した治水工事が行われており、高城川除・土手、萩原川川除、切原川土手、比木神社川表下堤等がある。

現在、小丸川本川 3k 000(右岸)に残る佐久間土手は、江戸より高鍋藩士として招かれた学者佐久間頼母翁の築いた土堤と言われ、築堤は元禄 6 年より 13 年に至る約 8 ヶ年の歳月を要し完成した。

また、川除けとしての水制工が 5 k 下流右岸に存在する。このように、小丸川の歴史はかなり古く、その起源は城下町の地名に由来するものである。

なお、当時の呼び方が「おまる」であったか、「こまる」であったかは不明であるが、現在では「おまる川」として地域の人々に親しまれている。



【佐久間土手(杉並木が佐久間土手)】

(出典：国土交通省 宮崎河川国道事務所)

図 2-3 高城川の役(天正 6 年、1578 年)

(出典：新納掟高城風雲録による)

(2) 舟 運

小丸川は、昔、薩摩藩の要衝高城（左岸 8k000 付近）の名をとって高城川と呼ばれていた。当時、高鍋藩の城下町には小丸川に通じる小丸川小路があり、これが接する場所は、現在も小丸出口（3k000 右岸付近）と言われ、交通の要である船着場として利用されていた。

「日向地誌」によると、川原村の川（高城川）について「平水巾 1 町余、深所 1 丈 5 尺、浅所 2〜3 尺、溪流ニシテ清シ、舟筏は本村ノ字甘顔轟下二沂ル」とあることから、現在の木城町川原付近から下流は舟筏による小荷物の運搬があったと記録されている。

また、高鍋町誌の説明では「巾 2 町海潮ノ来ル海口ヨリ 1 里許、持田村ノ坂元渡二至ル舟筏モ亦海口ヨリ 3 里許沂ル」とあり、さらに蚊口浦港について「高鍋村の東海口ニアリ港口ハ東南ニ向ヒ港内の潤縦 8.9 町、横 2 町許、干潮深二仞二過ス、高鍋川ハ其中ニ流入スルヲ持ツテ港内漸次二埋ル、百石以下の舟数十艘繁グベシ」とある。これより、高鍋町河口の蚊口浦港を拠点に、百石以下の船が数十艘停泊し、上流は川原付近まで、対外的には大阪付近との交易が行われていた。

特に、郷土が誇る福祉家、石井十次（慶応元年誕〜大正 3 年没）が茶臼原に孤児院を建設するため、岡山県孤児院の資材を、岡山市の旭川の河口から小丸川河口の蚊口浦港に陸揚げしたことは有名である。



現在の蚊口浦港の状況

（写真：国土交通省
宮崎河川国道事務所）

2-3-2 文化財

小丸川には、上流域に尾鈴県立自然公園内の瀑布群、鬼神野・梅尾溶岩溪谷等の景勝地が、下流域に持田古墳群を初めとして多くの史跡が存在している。

また、記念物では上流域に国の特別天然記念物である「カモシカ」や、天然記念物である「ヤマネ」が、下流域に「川南湿原植物群落」「オニバスの自生地」「アカウミガメ及びその産卵地」等小丸川流域には文化的に価値ある豊かな自然環境が存在する。

さらに、国指定重要無形民族文化財である「椎葉神楽」や県指定無形民族文化財の「高鍋神楽」が指定されており、文化・歴史における伝統芸能が息づいている。

(1) 記念物（史跡及び、天然記念物）

小丸川流域には、国指定の史跡3件、特別天然記念物1件、天然記念物6件、県指定の史跡5件、名勝1件、天然記念物2件がある。

表 2-4 小丸川流域の記念物（史跡・天然記念物）

史跡及び記念物					
区分	種別	名称及び物件	所在地		指定年月日
			市町村	地区	
国指定	史跡	持田古墳群	高鍋町	大字持田字計塚・字鬼ヶ久保・字西ヶ原・字関所・字中尾・字東光寺・字亀塚ほか	S36. 2. 25
		宗麟原供養塔	川南町	大字川南字湯迫	S8. 2. 28
		川南古墳群	川南町	大字川南字国光・字蟻別府・字西別府・字西別府下・字地藏谷・字上の原・字北原ほか	S36. 2. 25
	特別天然記念物	カモシカ	地域定めず		S30. 2. 15
		高鍋のクス	高鍋町	大字南高鍋字旧城内	S26. 6. 9
		川南湿原植物群落	川南町	大字川南字新橋	S49. 6. 11
		オカヤドカリ	地域定めず		S45. 11. 12
		ゴイシツバメシジミ	地域定めず		S50. 2. 13
		ヤマネ	地域定めず		S50. 6. 26
		カンムリウミスズメ	地域定めず		S50. 6. 26
県指定	史跡	高鍋町古墳	高鍋町	大字皆実南高鍋字高岡・字四ッ塚・字前古場・字上永谷・字水谷坂平付・大字蚊口浦字蚊口	S12. 7. 2
		石井十次生家	高鍋町	大字上江字馬場原	S47. 9. 26
		川南村古墳	川南町	大字川南字北原・字猿子塚・字年森	S14. 1. 27
		木城村古墳群	木城町	大字椎木字火除牟田・字岩穴口・字北中原、大字高城字岸立・字山塚原・字仁君谷ほか	S14. 1. 27
		南郷村古墳	美郷町	南郷区神門字下名木・字小路	S11. 7. 17
	名勝	鬼神野・梅尾溶岩溪谷	椎葉村 美郷町	大字大河内字梅尾 南郷区神門	H8. 3. 25
		オニバス自生地	木城町	大字椎木字柳丸	S8. 12. 5
	天然記念物	アカウミガメ及びその産卵地	宮崎市・高鍋町・新富町	(こどものくに海岸～堀之内海岸)	S55. 6. 24



持田古墳群
(写真：高鍋町 HP)



川南古墳群
(写真：川南町 HP)



木城村古墳群
(写真：木城町 HP)



高鍋のクス

(写真：宮崎県教育委員会文化財課)



オニバス自生地

(写真：宮崎県教育委員会文化財課)

(2) 指定文化財

小丸川流域には、国指定の重要文化財 1 件、重要無形民族文化財 1 件、県指定の有形文化財 3 件、無形民族文化財 1 件が点在する。

表 2-5 小丸川流域の指定文化財

指定文化財

区分	種別	名称及び物件	所在地		指定年月日
			市町村	地区	
国指定	重要文化財	神門神社本殿	美郷町	南郷区神門	H12. 12. 4
	重要無形民俗文化財	椎葉神楽	椎葉村	大字下福良字十根川ほか 26ヶ所 (十根川神楽保存会ほか)	H3. 2. 21
県指定	有形文化財	銅鏡 (三十三面)	美郷町	南郷区神門 (神門神社)	S40. 8. 17
		板絵著色観音菩薩御正体 (一面)	美郷町	南郷区神門 (神門神社)	S40. 8. 17
		高鍋町歴史総合資料館所蔵の豊臣秀吉朱印状及び徳川家康朱印状	高鍋町	大字南高鍋 (高鍋町歴史総合資料館)	H22. 3. 30
	無形民族文化財	高鍋神楽	高鍋町・川南町・都農町・新富町・木城町・美郷町 南郷区 (高鍋神楽保存会ほか)		S44. 4. 1



神門神社本殿

(写真：美郷町観光協会)



高鍋神楽

(写真：県広報みやざき)



図 2-4 小丸川流域内の国及び県指定史跡・天然記念物・指定文化財位置図

(出典：宮崎県教育委員会文化財課)

2-3-3 観光、祭り・イベント

(1) 観光

小丸川流域の河口部は良好な砂浜があり高鍋海水浴場、キャンプ場、蚊口海浜公園として多くの人々に利用されている。また、小丸川沿いには小丸川河畔運動公園、川原自然公園が整備され、地域住民がソフトボール、サッカー、カヌー、水遊び等のスポーツレクリエーションの場として活用している。特に、川原自然公園では「親子ふれあいカヌー教室」や「わんぱく体験教室」等のイベントも多く行われている。

また、小丸川河口部の入り江や河跡湖をはじめとする豊かな自然環境が存在することから、最近ではNPOや地域住民の人々が自然観察の場として利用している。

上流の豊かな自然環境を有する尾鈴県立自然公園区域の一部は、小丸川流域に位置し、自然観察、森林浴等を楽しむことのできるハイキングコースとして、また、三石溪谷や尾鈴山瀑布群・祇園滝等の美しい溪谷や多くの瀑布が流域内に点在しており、町民の避暑地として利用されている。

美郷町(旧南郷村)では、山草森林公園や美郷町総合運動公園等が整備され町民に活用されている。



高鍋海水浴場（高鍋町）

(写真：国土交通省
宮崎河川国道事務所)



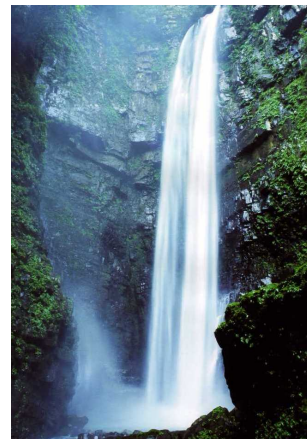
小丸川河畔運動公園（高鍋町）

(写真：国土交通省
宮崎河川国道事務所)



川原自然公園（木城町）

(写真：木城町ふるさと振興協会)



祇園滝

(写真：木城町 HP)

表 2-6 小丸川流域の観光資源一覧

名 称	内 容
高鍋海水浴場 (7月～8月)	県中央部唯一の海水浴場、安全で海水の美しいことで有名で、毎年10万人以上の海水客でにぎわっている。また、キャンプ場もあり親子、グループ連れに利用されている。
高鍋総合運動公園	整地された小丸川河川敷活用し、昭和54年以来運動広場として町民に開放している。小丸大橋の西側右岸地区、高鍋大橋を挟んでその左岸地区 11,250m ² に及び、ソフトボール用4面・サッカー用1面・ゲートボール用2面のコート을設けている。
小丸川河畔運動公園	・小丸川河畔運動公園野球場 小丸川の河口に近い左岸地区堤防内に53年3月完成。面積12,216m²、センター130m、両翼92m、顧客収容力2千人。昭和57年に4基の夜間照明施設を備えた。 ・小丸川河畔運動公園広場 上の野球場に接続して、昭和56年に設置した。面積28,000m²、400mトラック、サッカーコート2面、ソフトボールコート（ゲートボール併用）4面を有し、各種のスポーツ行事並びにその他の行事用として利用されている。
川原自然公園	高城の西約4km、小丸川沿いにある。周辺の木々と、清流の調和が見事な自然公園で、河原の岩頭には川中権現が祀られている。キャンプ場・バレーコート・野球場等も併設されており、町民の格好のレクリエーションの場となっている。
三石溪谷	三石神社直下の川中に3個の大石があり、川原ダム構築以前は、このため名物の小丸川アユの遡上を妨げていたので、西岸にトンネルが設けられている。三石はこの大石にちなんでつけられた地名である。かつては深淵・激流・巨岩・絶壁で人跡まれな幽邃境であった。
尾鈴山	海岸平野の各地から眺められる。県中部きっての名山で、尾鈴県立公園の中心を形成している。山頂は侵食が進んでおらず丸味を帯びているが、小丸川に面する西側と北側じゃ急傾斜をなし、溪谷も深い。都農町側の名貫川の上流は、この山麓で数条の支流に分かれ、無数の飛瀑が点在し、尾鈴山瀑布群とよばれている。 その山一帯は尾鈴山国有林で、暖帯広葉樹の原生林が生い茂り、新緑のころと紅葉のころは美しい。また、この尾鈴山を有名にしているものに、尾根一帯に自生するシャクナゲの大群落と、秋から初冬にかけて強い芳香を放つ花を咲かせる尾鈴寒蘭がある。 日向市や宮崎市からも山容が眺められ、若山牧水にも「ふるさとの尾鈴山のかなしさよ 秋もかすみのたなびきてをり」という歌がある。
渡川ダム	渡川ダムではヘラブナ釣りが楽しまれている。
山草森林公園	小丸川右岸の山草に位置し、昭和46年3月に設置され、施設規模10,000m ² を有し、展望台・便所・遊具・公園が設備されている。なお、この展望台からは南郷村中心地及び小丸川が一望できる。
美郷町総合運動公園	美郷町（旧南郷村中心）に位置し、昭和57年7月に設置され、施設規模70,000m ² を有し、多目的グラウンド1面（ソフトボール、野球場）、ゲートボール場1面、テニスコート2面、公園、駐車場、ナイター施設が整備されている。
祇園滝	大小三つの滝からなり、いずれも50m級のもので実に壮観。近くに中之又神社もあり、ハイカーも多い。木城中心部から小丸川に沿って36kmの地点にあり、途中の松尾ダム附近でのコイ・フナ釣り等も行われている。
鬼神野の美石群	美石群と呼ばれるこの岩石は、今からおよそ六千万年位前、海底火山活動が起こり、その時海底に噴出した玄武石質容岩の一部が今の美石群となったものである。 この海底はその後四十累層群の変成時期に隆起して現在地形になったもので、清流に洗われた赤・紫・黄緑の石肌の景観は目をみはるものがあり、夏は涼を求め、秋はヤマメの絶好の釣り場となっている。

(2) 祭り・イベント

小丸川流域では、多くの祭り、イベントが行われている。

表 2-7 小丸川流域市町の主な祭り、イベント

期 日	行事名	場 所	照会先	内 容	最寄駅
1月13日	高鍋神楽	高鍋町、木城町	八坂神社	この神楽は旧藩秋月氏領内の高鍋を中心として川南、新富、木城の愛宕・平田・八坂・八幡・比木・白髭神社に奉納される岩戸神楽系の六神社合同神楽で現在33番が伝わり静かで華麗な神楽である。	高鍋駅
1月中旬	神門神社師走祭り	南郷村神門	神門神社 (0982)59-1134	百済王族親子対面のまつりで木城町の比木神社から本社まで90kmの巡行する行事が行われる。 古代の風習を今に残す珍しい祭。	日向市駅
3月7日	百済の里ロードレース	南郷村	南郷村教育委員会 (0982)59-1509	古代史の謎を秘めた百済路で共に汗を流し、共に交流することで生涯スポーツの認識と相互の親睦を深める事を目的として開催される。ウォーキングからハーフマラソンまで数種目を予定。 ※平成10年度はバレーボールオリンピックの金メダリスト黄永祚選手と銀メダリストの森下広一を招待し、日韓友好に資する。	バス神門
2月下旬	ロードレース in 百済の里	南郷/R388	美郷町役場 南郷支所企画情報課 (0982)59-1601		
3月上旬	舞鶴ロードレース大会	小丸河川敷広場 (広場内及び周辺道路)	舞鶴ロードレース大会事務局 (0983)23-3701	「歴史と文教のまち高鍋」の大地で参加者が汗を流し、走る喜びを感じるとともに、健康・生涯スポーツへの関心を高め、明るい町づくりに寄与。	高鍋駅
3月下旬～ 4月初旬	舞鶴公園桜まつり	高鍋町大字南高鍋 舞鶴公園	高鍋町商工会議所 (0983)22-1333	舞鶴城跡に、1,000本の桜があり、武道演武剣道弓道大会他に演芸大会でにぎわい、夜は電飾で人手が多い。	高鍋駅
4月初旬	城山公園花まつり	木城町大字高城 城山公園	木城町商工会 (0983)32-2070	演芸大会、武道大会などがある。	高鍋駅
5月中旬	扇山山開き	椎葉村扇山	椎葉村企画開発課 (0982)67-3111	神事、安全祈願の後、山頂祭もある。	バス上椎葉
7月1日	尾鈴 キャンプ場開き	都農町尾鈴	都農町観光協会 (0983)25-1021	神事、7～9月がシーズン。溪流釣りのメッカとして知られている。	都農駅
7月上旬	八坂神社夏祭り	高鍋町南町	高鍋町観光協会 (0983)22-1333	町民あげてのお祭りで、夜店などが出る。	高鍋駅
7月中旬	鶴戸神社夏祭り	鶴戸神社周辺	高鍋町観光協会 (0983)22-5588	みこし巡幸のクライマックス「お宮入り」での氏子同士の激しいぶつかり合いは圧巻。	高鍋駅
7月下旬	立花神社夏祭り	高鍋町宮越	高鍋町観光協会 (0983)22-1333	みこし、太鼓台が町を練り歩く。	高鍋駅
7月26日・27日	火産霊神社夏祭り	高鍋町六日町	高鍋町観光協会 (0983)22-1333	みこし、太鼓台が町を練り歩く。	高鍋駅
7月17日	高鍋海水浴場開き キャンプ村開設	高鍋町蚊口浜	高鍋町商工会議所 (0983)22-1333	昭和29年開設以来、無事故を誇る。	高鍋駅
7月中旬	尾鈴滝めぐり	都農町尾鈴	都農町観光協会 (0983)25-1021	尾鈴山を水源とする清流、名貫川の上流一帯に大小30余りの滝群がある。中でも「日本の滝百選」の矢研の滝は有名。	都農駅
7月下旬	小丸川源流まつり	椎葉村 木田尾小丸川	椎葉村観光協会 (0982)67-3111	清流でのつり大会、郷土芸能大会、バーベキューなどを通して、帰省客や観光客と村民の交流を深める楽しいイベント。	バス神門
7月末頃	比木神社夏まつり	比木神社	木城町役場 企画課 (0983)32-4727	子供みこしが町内を練り歩き、夜には神楽が奉納される。	高鍋駅
8月中旬	矢立高原まつり	椎葉村大河内矢立 高原キャンプ場	椎葉村観光協会 (0982)67-3111	矢立高原の豊かな緑と広大な自然を村内外にアピールする。	バス上椎葉
8月中旬	尾向地区渓谷まつり	椎葉村尾向地区	椎葉村観光協会 (0982)67-3111	尾前の清流でのつり大会や花火大会を中心に帰省客や観光客との交流を図る楽しいイベント。	バス上椎葉
8月16日	百済の里いざごろ祭り	南郷村神門	百済の里 南郷温泉観光協会 (0982)59-1501	いざごろ踊り、してな踊り、ひえちぎり唄、サドルノリ、打ち上げ花火。	バス神門
7月	高鍋オープン サーフィンコンテスト	高鍋町蚊口浜	高鍋町観光協会 (0983)22-1333	サーフィンの競技のほか、各種アトラクションも開催。	高鍋駅
9～10月頃	かわばる釣り大会	木城町川原自然公園	木城町川原自然公園 (0983)32-4122	大好評のニジマスの釣り堀を実施。	高鍋駅
10月中旬	高鍋城灯籠まつり	舞鶴公園周辺	高鍋町役場 地域政策課 (0983)26-2015	毎年10月に開催される町の代表的なイベント。舞鶴公園や城堀公園、町内各所に設置された灯籠に火が灯され幻想的な雰囲気包まれる。	高鍋駅
10月下旬	木城ふるさとまつり	コミュニティ多目的広場	木城町役場 企画課 (0983)32-4727	まつりのフィナーレは3,000発の花火で秋の夜空を彩る。	高鍋駅
10月下旬	古墳祭	高鍋町持田	高鍋町社会教育課 (0983)23-0315	持田古墳群26号墳前に祭典場を設け、高鍋神社に奉納し、先祖の霊を慰め敬う。	高鍋駅
11月 第2 金・土・日	椎葉平家まつり	椎葉村	椎葉平家まつり 実行委員会 (0982)67-3111	農林業をと観光振興を結びつけ、各種展示会、大和絵巻武者行列が開催される。	バス上椎葉
12月 第1土曜日	中之又夜神楽	木城町大字 中之又字中之又	中之又鎮守神社 (0982)69-8401	中之又夜神楽33番が豊作を祈願して奉納されている。	高鍋駅
12月 第1土曜日	比木夜神楽	木城町大字比木	宮司 橋口 清文 (0983)32-3737	高鍋神楽33番が豊作を祈願して奉納されている。	高鍋駅



(写真：高鍋町 HP)



(写真：高鍋町観光協会)



高鍋城灯籠まつり（高鍋町）

(写真：高鍋町 HP)



高鍋神楽（高鍋町）

(写真：宮崎県教育委員会文化財課)



小丸川源流祭り（椎葉村）

(写真：椎葉村観光協会)



神門神社師走祭り（美郷町）

(写真：美郷町 HP)

2-4 自然公園等の指定状況

2-4-1 自然公園

自然公園法に基づく宮崎県指定の「尾鈴県立自然公園」の一部が小丸流域内に含まれている。上流域には桧葉自然環境保全地域があり、ブナ林、モミ・ツガ林が混生した照葉樹林帯がある。



図 2-6 小丸川流域の自然公園位置図

(出典：宮崎県自然環境課)

[尾鈴県立自然公園]

独立峰尾鈴山を囲む形で指定されており、小丸川流域にはその一部がかかっている。

尾鈴県立自然公園は、海岸平野の各地から眺められる県中部きっての名山である尾鈴山を中心としており、その山頂は侵食が進んでおらず丸味を帯びているが、小丸川に面する西側と北側は急傾斜をなし溪谷も深く、日向市や宮崎市からも山容が眺められ、若山牧水にも「ふるさとの尾鈴の山のかなしさよ私もかすみのたなびきており」という歌もあり多くの人々に知られている。

- ・ 指定年月日 : 昭和 33 年 9 月 1 日
- ・ 面 積 : 13,301ha
- ・ 含まれる流域内市町 : 木城町、都農町、川南町

[^{かしば}檜葉自然環境保全地域]

宮崎県の西部、三方岳の南部に位置する標高 700m～1400m にあり、九州脊梁山地の一部に属する原生的国有林である。

森林植生は暖帯上位一温帯に属する樹種が分布している。林相は落葉広葉樹林、モミ、ツガなどの針葉樹林、両者の混交する林の三林分が大部分を占めている。林齢は 250 年～500 年と推定される。動物はシカ、イノシシ、ノウサギ、ムササビ、テン、タヌキ、ヒメネズミ等が確認されており、この他サル、アナグマ、イタチの生存が考えられる。

鳥類は、ヤイロチョウ、ジュウイチ、アカショウビン、クマタカ、コガラ、オオルリ、コシジロヤマドリなどが確認されている。

- ・ 指定年月日 : 昭和 51 年 12 月
- ・ 面 積 : 119.87ha
- ・ 所在地 : 東臼杵郡美郷町大字渡川字檜葉



檜葉自然環境保全地域の風景
(写真：宮崎県の巨樹分布一覧)



樹種：マンサク科イスノキ
幹周：490cm 樹高：20m
所在：宮崎県美郷町上渡川・檜葉国有林
指定：県巨樹100選
(写真：宮崎県の巨樹分布樹種別一覧)

2-4-2 その他の環境関連法による指定状況

小丸川流域内の各種地域指定として、自然公園の他に高鍋町の都市計画区域、尾鈴山鳥獣保護区、尾鈴林木遺伝資源保存林が挙げられる。



図 2-7

小丸川流域に係る地域指定図

(出典：宮崎県都市計画課、自然環境課資料)

第 3 章 流域の社会状況

3-1 土地利用

小丸川流域は、宮崎県の県中央に位置し、西都市、日向市、高鍋町、木城町、美郷町、川南町、椎葉村の 2 市 4 町 1 村からなり、流域内の土地利用は、山地が約 87%、畑地等の農地が約 10%、宅地等が約 3%である。

表 3-1 小丸川流域の土地状況

土地利用形態	山地	農地	宅地	総面積
面積	412km ²	48km ²	14km ²	474km ²
(割合)	(87%)	(10%)	(3%)	(100%)

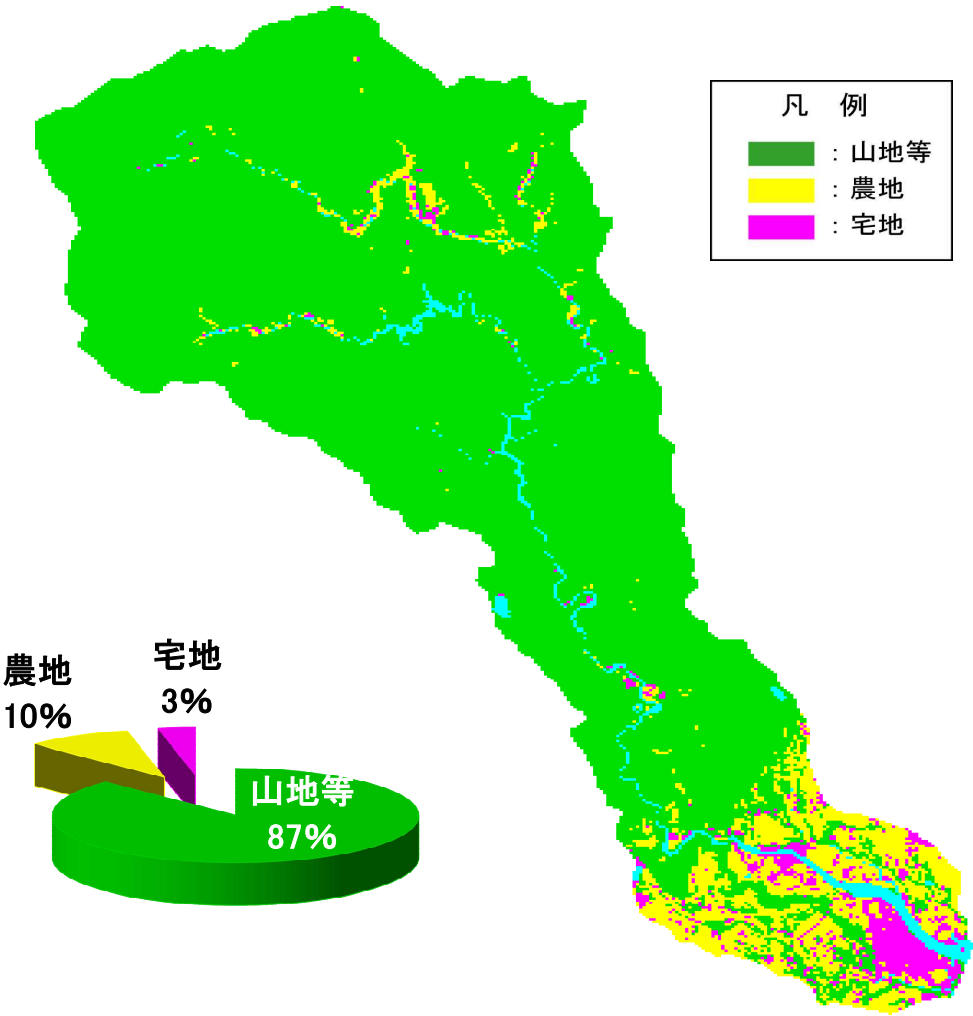


図 3-1 小丸川流域の土地利用状況図

3-2 人口

小丸川流域内の人口は、約 3 万 1 千人であり、高鍋町、木城町及び美郷町（旧南郷村）の人口が全体人口の多くを占める。

流域内主要市町人口の推移（3 町の合計）は、昭和 45 年頃から増加傾向がみられ、昭和 60 年まで増加傾向を示していたものの、その後はほぼ横ばいまたは減少傾向である。

表 3-2 流域内主要市町人口の推移 （単位：人）

市町村名	S35	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2
高鍋町	20,041	19,894	19,777	21,494	22,950	23,239	22,970	22,886	22,748	22,522	21,733	21,025	19,922
木城町	8,063	6,907	6,031	5,575	5,857	6,101	5,871	5,727	5,759	5,531	5,177	5,231	4,895
美郷町(旧南郷村)	7,126	5,965	4,782	4,131	3,754	3,418	3,055	2,788	2,604	2,342	2,046	1,793	1,555
合計	35,230	32,766	30,590	31,200	32,561	32,758	31,896	31,401	31,111	30,395	28,956	28,049	26,372

出典）国勢調査

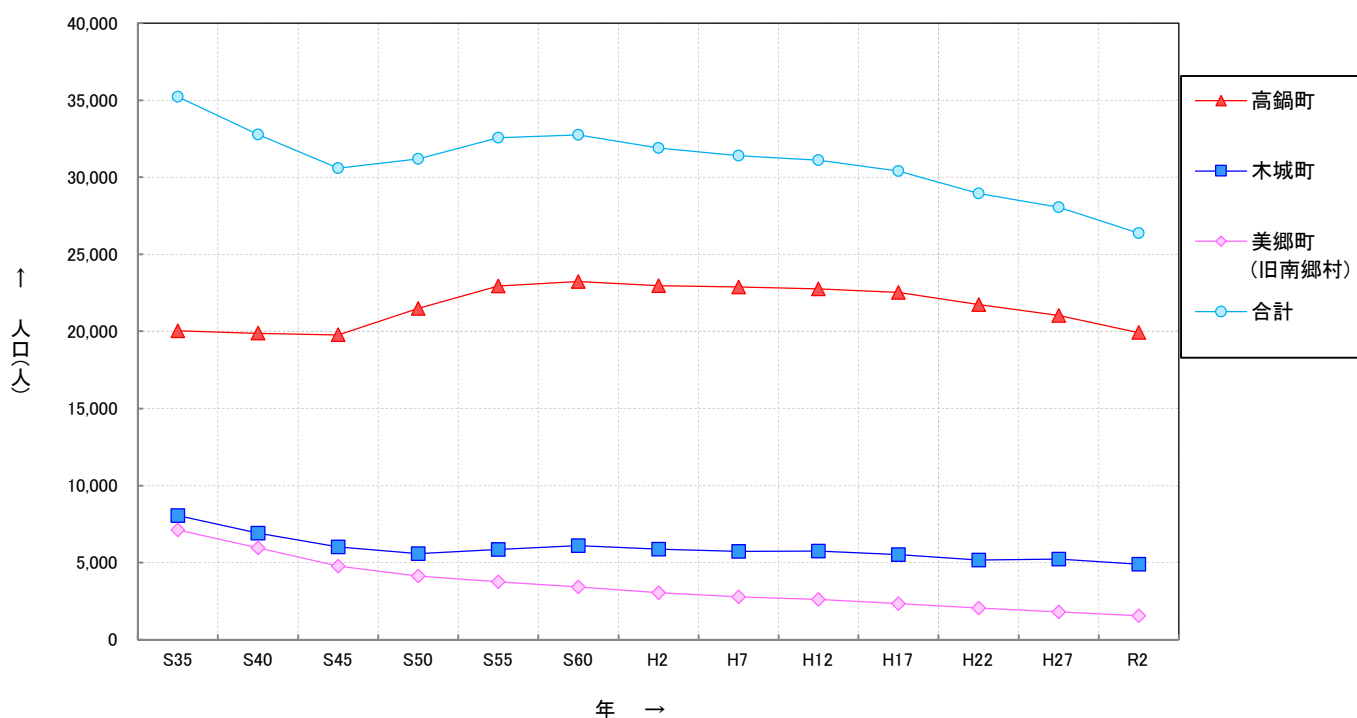


図 3-2 小丸川流域内主要市町人口の推移

3-3 産業経済

上流の山間部では木材、シイタケ等の林業を中心とした産業のほか、数々の神話や豊かな自然環境を基とした観光産業が盛んで、中下流の平野部では養鶏や養豚などの畜産業や、酒造業などが営まれているほか、第3次産業の比率が高く、この地域の社会・経済・文化の基盤を成している。

また、上流ではダム群を利用した水力発電が盛んであり、小丸川流域では、九州における水力発電量の約4割を担っている。

表 3-3 流域内における産業別就業者人数 (単位：人)

区 分	平成2年時点	平成7年時点	平成12年時点	平成17年時点	平成22年時点
第一次産業	3,833	3,227	2,909	2,735	2,395
第二次産業	4,072	4,033	3,875	3,299	2,881
第三次産業	8,019	8,445	8,656	9,107	8,773

出典) 河川現況調査(H2、H7、H12、H17、H22年調査)

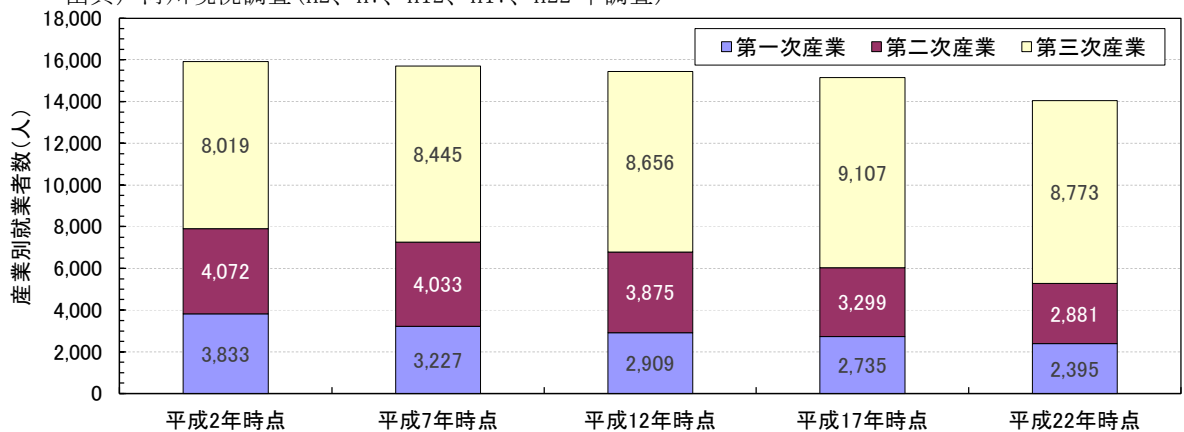


図 3-3 流域内における産業別就業者人数

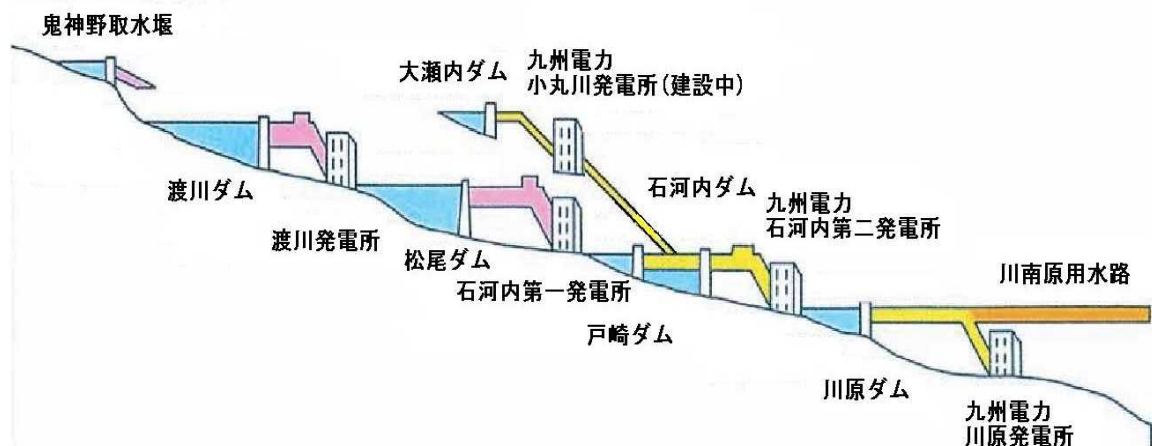


図 3-4 小丸川流域の発電所(ダム群による水力発電)

(出典：宮崎県企業局 HP)

3-4 交通

小丸川流域の鉄道は、北九州市と鹿児島市を結ぶＪＲ日豊本線が河口付近を横断している。日豊本線は、大分市、延岡市、宮崎市等の主要都市を結ぶ九州東側の幹線鉄道であり、地域の発展に重要な役割を果たしている。

道路については、国道 10 号が河口付近を日豊本線と平行して横断し、国道 388 号、446 号が上流域を横断している。さらにこの国道を結ぶ主要地方道が流域内を縦断している。また、東九州自動車道の整備も進み、高鍋ＩＣが完成している。

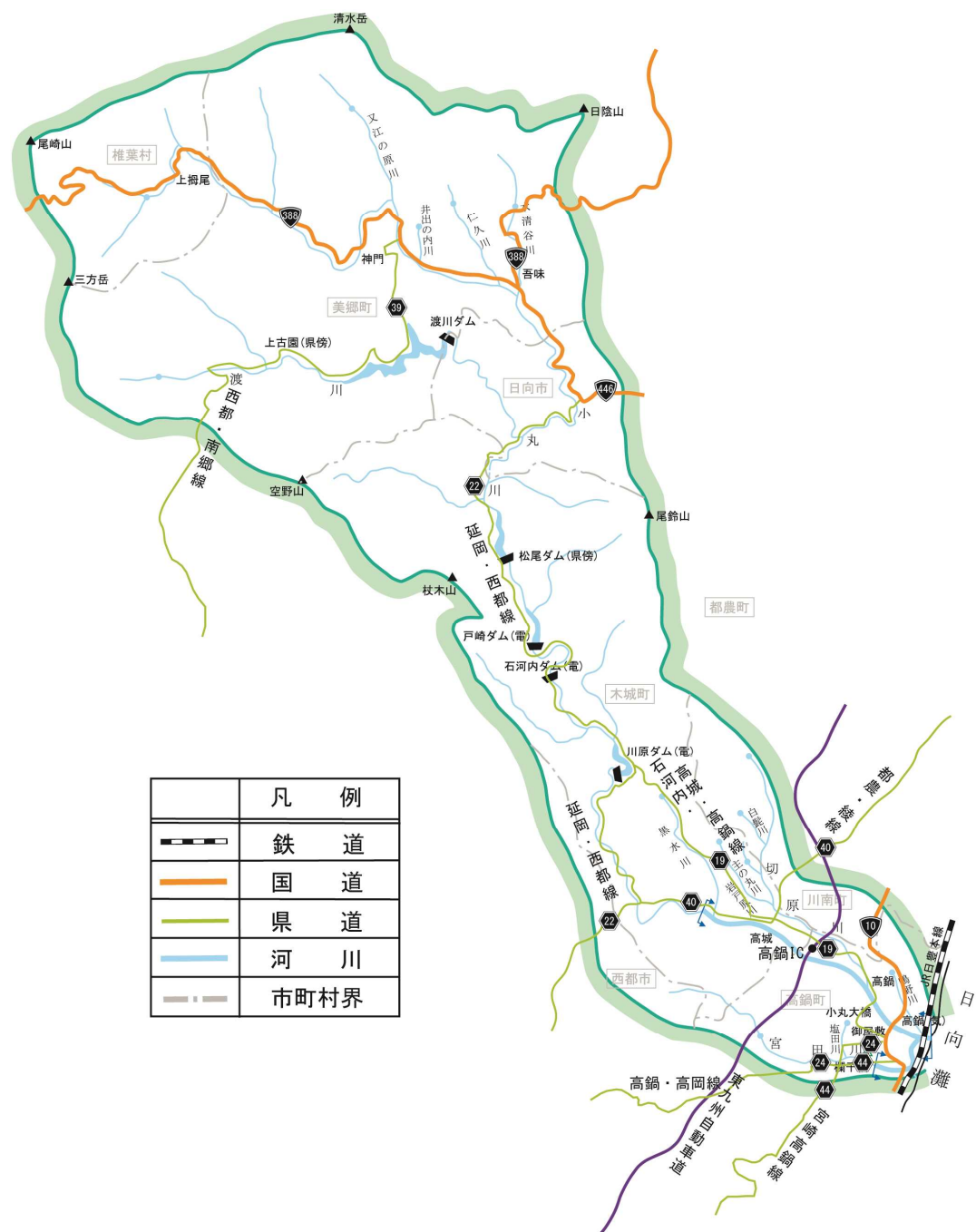


図 3-5 小丸川流域の交通体系図

第4章 水害と治水事業の沿革

4-1 既往洪水の概要

小丸川流域の年降雨量は約 3,000 mm程度で、全国平均 1,700mm の 1.8 倍であり、主要洪水の要因のほとんどが台風によるものである。

既往の主要な災害は表 4-1 に示すとおりである。

表 4-1 小丸川水系の主な洪水

洪水年		出水概要	被害状況
1943 年	昭和 18 年 9 月洪水 (台風 18 号)	神門における 3 日間雨量 342mm (9 月 19 日の日雨量 225mm) で、 本川中流部の塊所則水所で 2,185m ³ /s、その下流川原測水所 では 2,845m ³ /s と推定している。	不 明
1950 年	昭和 25 年 9 月洪水 (キジア台風)	神門で 3 日間連続雨量 560.5mm (12 日の日雨量 292.2mm)、高城 では計画高水位 (5.985m) を超 過し、最高水位 6.10m を記録し た。なお、松尾堰堤の洪水痕跡 による算定流量は 3,300m ³ /s で ある。	死者 8 名 家屋全壊 228 戸 家屋半壊 891 戸 床上浸水 3,974 戸 床下浸水 7,047 戸
1954 年	昭和 29 年 9 月洪水 (台風 12 号)	岩淵地区にて堤防決壊し、大規 模な浸水被害が発生した。多く の家屋が流出し、人的被害を含 む甚大な被害が発生した。	家屋流出 189 戸 家屋全壊 109 戸 家屋半壊 98 戸 床上浸水 426 戸
1997 年	平成 9 年 9 月洪水 (台風 19 号)	台風 19 号の接近に伴い、高城上 流域の平均総雨量は約 480mm を 記録し、内水により床上浸水す る等、大きな被害が発生した。	床上浸水 5 戸 床下浸水 14 戸
2004 年	平成 16 年 8 月洪水 (台風 16 号)	高城上流域の平均総雨量は約 530mm に達し、北高鍋地区にて内 水により家屋浸水等の被害が発 生した。	床下浸水 6 戸
2005 年	平成 17 年 9 月洪水 (台風 14 号)	高城上流域平均総雨量は約 780mm に達し、下流の高鍋市街部 において水位がHWLを超過し た。観測史上最大規模の洪水で あり、北高鍋地区にて内水浸水 被害が発生した。	床上浸水 32 戸 床下浸水 209 戸
2022 年	令和 4 年 9 月洪水 (台風 14 号)	小丸大橋水位観測所において既 往最大を記録した平成 17 年 9 月 洪水に次ぐ、戦後第 2 位の水位 を記録し、内水浸水が発生した。	床上浸水 1 戸 床下浸水 0 戸

(1) 昭和 18 年 9 月洪水

14 日にサイパン島東方に発生した台風 18 号は、中心気圧 900mb 内外と推定され、鹿児島県佐田岬沖（20 日 6 時）より、日向灘に向かって北北東に進み、正午土佐宿毛付近に上陸、鳥島付近から日本海に抜けた台風で甚大な被害が発生した。

神門における 3 日間雨量 342mm（9 月 19 日の日雨量 225mm）で、本川中流部の塊所則水所で $2,185\text{m}^3/\text{s}$ 、その下流川原測水所では $2,845\text{m}^3/\text{s}$ と推定している。

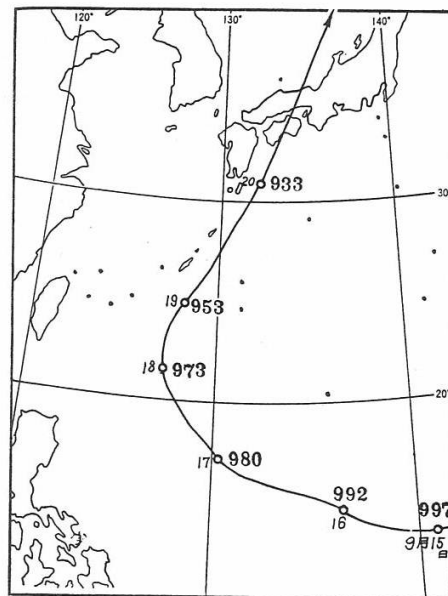


図4-1 台風経路図（昭和18年9月洪水）

（出典：宮崎県災異史）

(2) 昭和 25 年 9 月洪水（キジア台風）

9 月 3 日に発生したキジア台風の接近に伴い、9 月 13 日の未明から、風、雨ともに強くなり、神門で 3 日間連続雨量 560.5mm（12 日の日雨量 292.2mm）、高城では計画高水位（5.985m）を超過し、最高水位 6.10m を記録した。なお、松尾堰堤の洪水痕跡による算定流量は $3,300\text{m}^3/\text{s}$ である。

<被害状況>

- ・死者 8 名
- ・家屋全壊 228 戸
- ・家屋半壊 891 戸
- ・床上浸水 3,974 戸
- ・床下浸水 7,047 戸

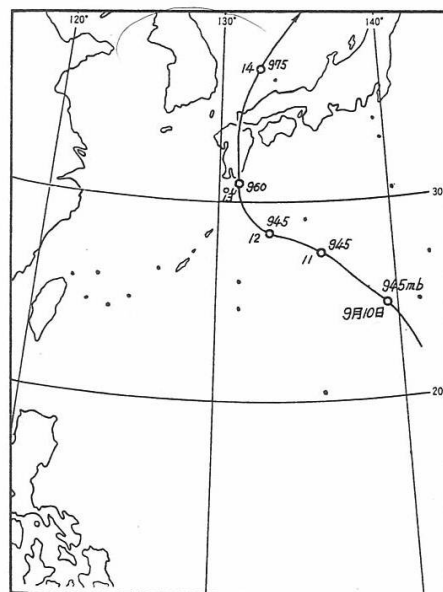


図4-2 台風経路図（昭和25年9月洪水）

（出典：宮崎県災異史）

(3) 昭和 29 年 9 月洪水

台風 12 号は、9 月 11 日正午、平地においては 12 日夜半より本格的降雨となり、その後台風の接近に伴い降雨は次第に増大し、12 日夕刻迄の降雨量は平地高鍋で 110.9 mm、山地渡川で 228.9 mm に達した。13 日早朝より同日夕刻迄山地渡川付近に於ては、1 時間平均 35 mm を越える豪雨が降り続き、上流上渡川では最大 1 時間雨量 66.5 mm を記録。10 日の降り始めより 14 日の降り終わりまで、12 日 13 日に降雨が集中しており、山間部では 800mm～1,200 mm、平地では 250 mm～300 mm の総降雨量となった。

12 日夕刻には。各地点で指定水位に達し、13 日早朝には警戒水位を、同日正午には計画高水位を超過し、同日夕刻には最高水位に達した。

<被害状況>

- ・家屋流出 189 戸 ・家屋全壊 109 戸
- ・家屋半壊 98 戸 ・床上浸水 426 戸



写真4-1 昭和29年9月洪水被害状況（高鍋町）
（写真：国土交通省 宮崎河川国道事務所）

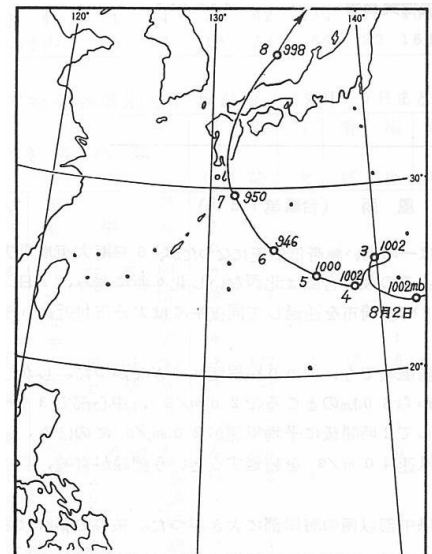


図4-3 台風経路図（昭和29年9月洪水）
（出典：宮崎県災異史）

(4) 平成 9 年 9 月洪水

台風 19 号の接近に伴い、高城上流域の平均総雨量は約 480mm を記録し、内水により、床上浸水 5 戸、床下浸水 14 戸の被害が発生する等、大きな被害が発生した。

<被害状況>

- ・床上浸水 5 戸 ・床下浸水 14 戸



写真4-2 平成9年9月洪水被害状況（高鍋町）
（写真：国土交通省 宮崎河川国道事務所）

(5) 平成 16 年 8 月洪水

8 月 19 日にマーシャル諸島付近の海上で発生した台風 16 号は、24 日には沖の島の南東海上で中心気圧 910hPa、最大風速 55m/s にまで発達し、30 日の 9 時 30 分頃に、鹿児島県串木野市付近に上陸した。

台風 16 号の接近に伴い、小丸川では高城上流域の平均総雨量が約 530mm に達し、北高鍋地区において内水による床下浸水 6 戸の被害が発生した。

＜被害状況＞

- ・床下浸水 6 戸



濁流が流下する小丸川



内水被害状況（高鍋町）

写真 4-3 平成 16 年 8 月出水の浸水状況

（写真：国土交通省 宮崎河川国道事務所）

(6) 平成 17 年 9 月 6 日の洪水(台風 14 号)の概要

8 月 29 日にマリアナ諸島近海で発生した台風 14 号は、大型で非常に強い勢力のまま宮崎県内を暴風雨域に巻き込みながら、九州の西の海上をゆっくりとした速度で通過し、宮崎県内に記録的な豪雨をもたらした。

宮崎県南部は 5 日午後 6 時に暴風域に入り、総雨量が神門観測所で 912mm に達する等、3 日間で年間降水量の 1/3 超を記録し、観測史上最大規模の洪水となった。

＜被害状況＞

- ・床上浸水 32 戸
- ・床下浸水 209 戸



濁流が流下する小丸川



内水被害状況（高鍋町）

写真 4-4 平成 17 年 9 月出水の浸水状況

（写真：国土交通省 宮崎河川国道事務所）

(7) 令和 4 年 9 月洪水

9 月 14 日に小笠原近海で発生した台風第 14 号は、17 日から 19 日にかけて奄美地方の東海上に接近・北上し、大型で非常に強い勢力を維持しながら、18 日 13 時半頃屋久島付近を通過、その後 19 時頃に鹿児島市付近に上陸して薩摩半島を北上した。宮崎県においては 9 月 15 日から 19 日にかけて雨が降り続き、18 日 10 時頃には暴風域に入り、18 日 22 時頃に最接近した中で、18 日昼前から 19 日未明にかけて局地的に猛烈な雨をもたらした。

小丸川では、小丸大橋水位観測所において既往最大を記録した平成 17 年 9 月洪水に次ぐ、戦後第 2 位の水位を記録し計画高水位を 2 時間超過する大規模な洪水となった。

<被害状況>

- ・ 床上浸水 1 戸
- ・ 床下浸水 0 戸



内水浸水状況（高鍋町営野球場）

写真 4-5 令和 4 年 9 月出水の浸水状況

（写真：国土交通省 宮崎河川国道事務所）

4-2 治水事業の沿革

(1) 藩政時代の治水事業

水田が河川沿川にまで開発拡大された藩政時代においては、当事の有力な財政基盤であった水田を洪水から防御することは統治者の重要な努めであった。

水田の広がる小丸川下流域を治めた高鍋藩は、水害対策として川除(水制)、土手(堤防)の工事を行ったことが高鍋藩の農政書(石垣垣太郎著)に記されている。

また水害を少なくするために分水や川ざらえも行われた。分水とはかんがい取水を兼ねたもので川に堰をつくり、堀割を設け水を引いたと説明されている。

小丸川本川 3K000(右岸)に今も残る佐久間土手は、江戸時代より高鍋藩士として招かれた学者佐久間頼母翁の築いた土堤と言われ、築堤は元禄6年より13年に至る約8ヶ月の歳月を要して完成した。

(2) 戦前の治水事業

明治29年(1896年)に河川法が制定され、直轄による水系一貫した治水事業がなされるようになった。しかしながら、昭和21年に中小河川事業として着手するまでは見るべき改修はされなかった。

(3) 戦後の治水計画

昭和18年9月洪水を契機に、宮崎県が昭和21年から中小河川改修事業として着手し、高城における計画高水流量を $3,000\text{m}^3/\text{s}$ と定め、現在の木城町から河口までの区間について築堤工事等を実施した。

その後、昭和25年から直轄事業に着手したが、昭和42年12月には、昭和25年9月洪水を主要な対象洪水として、基準地点高城における基本高水のピーク流量を $3,600\text{m}^3/\text{s}$ とし、このうち $600\text{m}^3/\text{s}$ を渡川ダム、松尾ダムにより調節し、計画高水流量を $3,000\text{m}^3/\text{s}$ とする工事実施基本計画を策定し、小丸川本川及び支川の築堤・掘削・護岸等の河川整備を実施している。

(4) 近年の治水事業

平成9年(1997年)の河川法の改正を受けて河川整備の基本となる小丸川水系河川整備基本方針を平成20年(2008年)3月に策定した。平成16年(2004年)8月洪水や戦後最大の洪水となった平成17年(2005年)9月洪水等をかながみ、基準地点高城における基本高水のピーク流量を $5,700\text{m}^3/\text{s}$ とし、このうち洪水調節施設により $1,000\text{m}^3/\text{s}$ を調節して、計画高水流量を $4,700\text{m}^3/\text{s}$ とした。平成25年(2013年)8月には、小丸川水系河川整備計画を策定し、河川整備計画の整備目標流量を基準地点高城で $4,600\text{m}^3/\text{s}$ とし、段階的かつ着実に治水安全度向上に向けた堤防整備等を進めるとともに、河床低下等の抑制のため、急流河川対策、高速流対策として、床止めや護岸整備、水制工の設置等の整備も進めてきた。

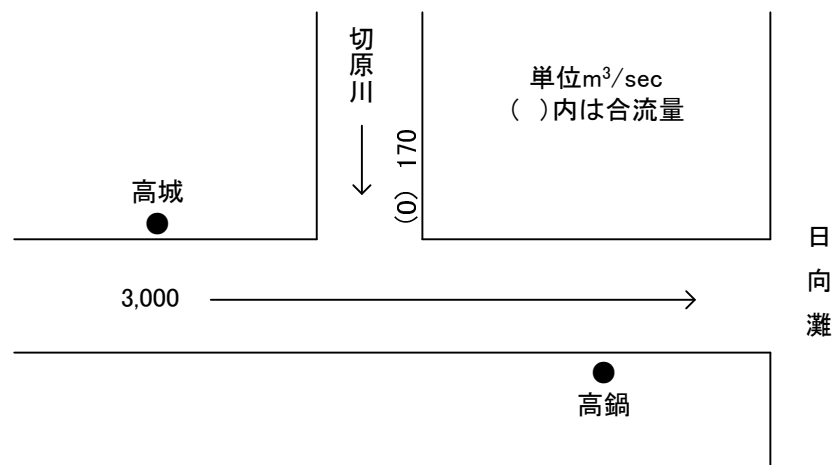


図 4-4 小丸川水系計画高水流量図（工事実施基本計画、昭和 42 年策定）

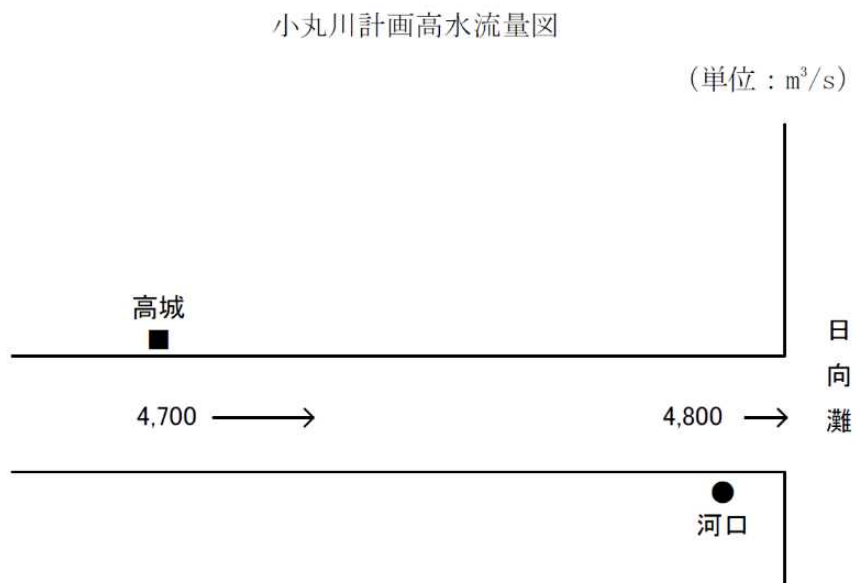


図 4-5 小丸川水系計画高水流量図（河川整備基本方針、平成 20 年策定）

第5章 水利用の現状

5－1 水利用の変遷と現状

河川水の利用については、現在、農業用水として約 3,100ha の農地でかんがい利用され、水道用水、工業用水として高鍋町で利用されている。また、古くから水力発電の開発が行われている小丸川の川原発電所（昭和 15 年（1940 年設置））をはじめとして、7ヶ所の発電所により最大出力約 127 万 kW の電力供給が行われている。

【水利権量内訳】

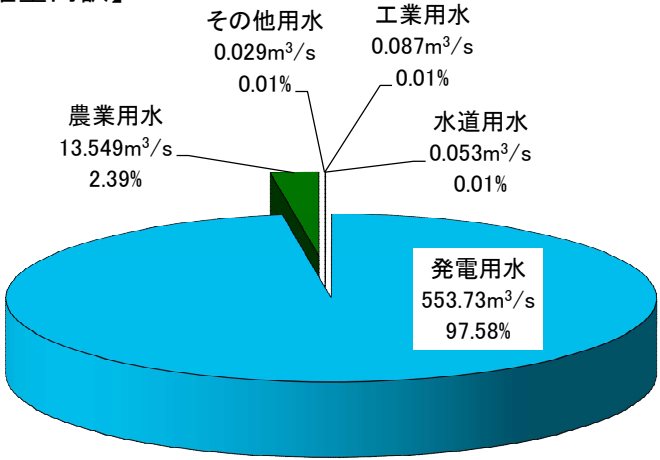


図 5-1 小丸川水系における水利権

表 5-1 小丸川水系における水利権一覧表

水利使用目的	件数	水利権量計 (m³/s)	備 考
農業用水	45	13.549	
工業用水	2	0.087	南九州化学工業㈱ 南郷コンクリート工業
発電用水	7	553.73	発電最大出力 1,273.3 千 kw
水道用水	1	0.053	高鍋町
その他用水	2	0.029	
合 計	55	567.448	

* 発電用水には、従属発電分の件数及び発電最大出力を含めた。

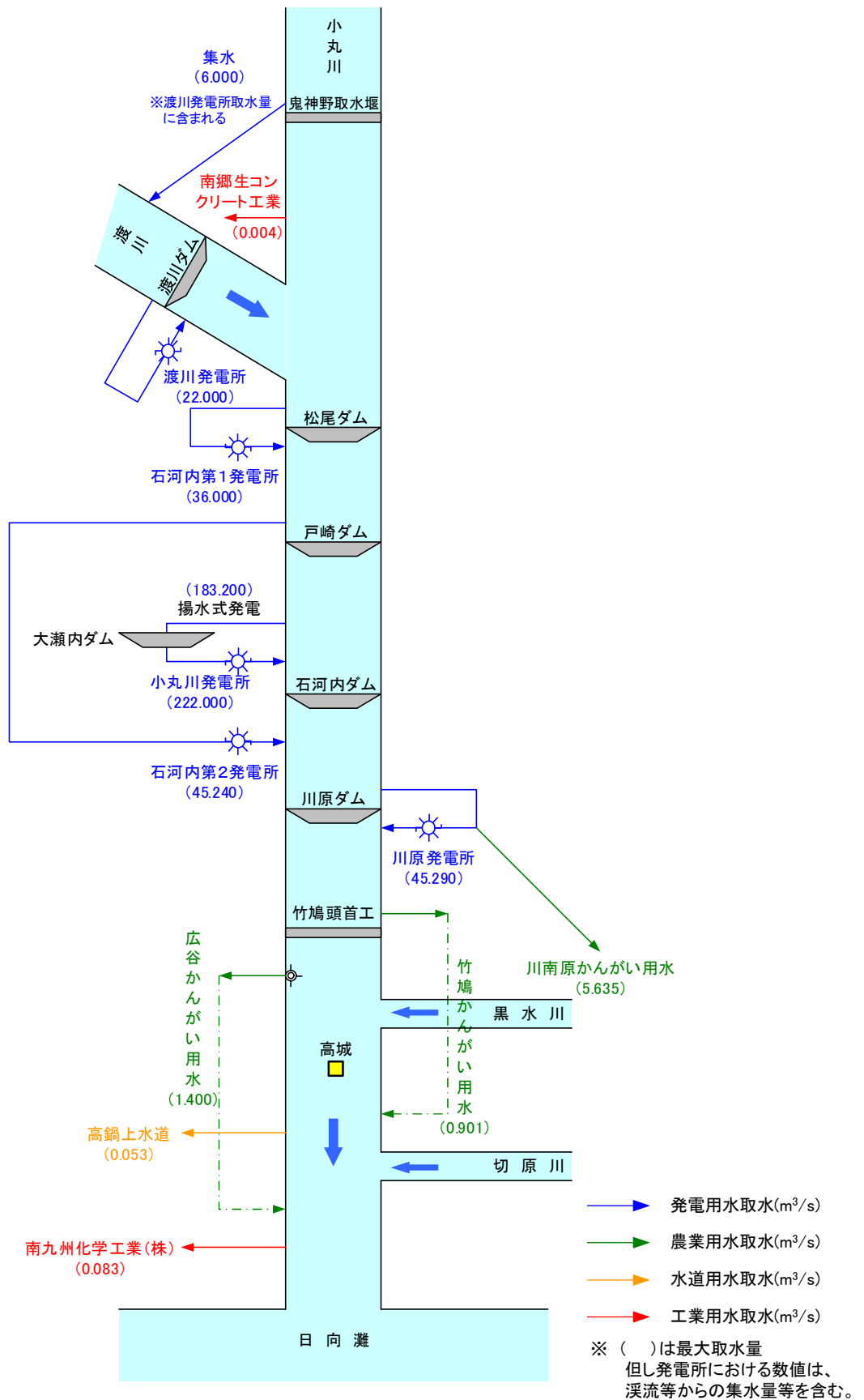


図 5-2 小丸川水系の主な水利用模式図

5－2 渇水被害の概要

流量の観測基準点である高城地点（流域面積 396.3km²）の昭和 30 年から令和 3 年までの過去 67 年間の平均渇水流量は 2.81m³/s であり、近年において渇水被害は発生していない。

また、聞き取り調査結果においても、小丸川流域内で渇水被害に関する記録はないことが判明している。

第6章 河川の流況と水質

6-1 河川流況

小丸川の高城地点における昭和30年から令和3年までの過去67年間の平均低水流量は6.95m³/s、平均渇水流量は2.81m³/s、10年で1回程度の規模の渇水流量は1.07m³/sである。

表 6-1 高城地点流況表（昭和30年～令和3年） 【通年】

年	最大流量	豊水流量	平水流量	低水流量	渇水流量	最小流量	平均	年総流量 (×10 ⁶)m ³			
S 30	968.00	32.80	16.90	8.02	3.90	2.26	31.34	988			
S 31	586.00	20.00	13.70	9.08	1.49	0.58	23.54	744			
S 32	1665.00	31.85	15.25	7.85	1.14	0.19	40.58	1,280			
S 33	107.00	24.00	14.10	6.52	2.40	1.54	20.48	646			
S 34	1290.00	36.50	24.40	14.00	3.01	1.68	33.06	1,043			
S 35	720.50	46.40	23.00	11.80	3.90	1.10	34.81	1,101			
S 36	1232.60	39.70	28.60	14.40	6.30	5.00	50.69	1,599			
S 37	648.40	41.80	19.00	7.10	4.30	3.10	33.59	1,059			
S 38	654.70	32.80	13.80	6.60	2.60	1.30	31.64	998			
S 39	1660.70	40.00	22.70	7.60	1.10	0.20	38.87	1,229			
S 40	411.10	25.10	14.60	6.10	1.40	0.40	22.68	715			
S 41	808.72	46.26	30.15	14.37	2.26	1.56	46.53	1,468			
S 42	378.92	21.87	4.32	1.57	0.20	0.04	15.29	482			
S 43	1156.06	23.93	12.99	4.62	0.80	0.00	28.56	903			
S 44	301.80	20.34	10.58	3.69	1.29	0.72	21.38	674			
S 45	960.86	43.33	22.09	5.67	1.56	0.63	44.09	1,390			
S 46	2226.10	26.71	11.25	3.98	0.56	0.22	38.00	1,198			
S 47	1224.91	33.57	21.91	7.34	3.20	2.16	41.58	1,315			
S 48	386.45	19.95	9.76	4.49	1.07	0.38	17.33	547			
S 49	687.06	27.67	16.16	5.16	0.72	0.46	28.98	914			
S 50	349.54	36.49	24.17	13.11	2.13	1.23	32.27	1,018			
S 51	875.22	35.32	18.19	6.88	2.43	0.82	31.11	984			
S 52	474.86	29.85	15.33	6.26	1.89	0.72	28.54	900			
S 53	946.45	27.85	13.83	7.36	2.96	1.63	31.72	1,000			
S 54	672.26	38.71	23.59	11.47	2.13	1.52	38.39	1,211			
S 55	1356.20	45.12	27.72	15.36	2.81	1.00	40.03	1,266			
S 56	284.83	28.15	13.45	7.05	2.02	0.48	18.89	596			
S 57	1540.18	31.20	18.67	9.62	3.75	2.22	41.97	1,324			
S 58	380.04	38.12	21.87	6.24	1.33	0.97	32.19	1,015			
S 59	857.56	23.97	13.23	6.45	1.94	0.79	30.07	951			
S 60	665.07	34.96	18.16	8.84	2.82	1.86	37.74	1,190			
S 61	636.22	27.35	11.39	6.03	3.23	2.58	25.74	812			
S 62	604.18	32.73	18.92	7.67	3.05	1.79	33.05	1,042			
S 63	775.20	28.75	12.68	4.61	2.40	1.80	26.93	852			
H 1	1687.37	39.31	11.90	5.73	1.96	1.30	41.69	1,315			
H 2	1398.43	31.63	14.46	7.04	3.75	2.40	39.37	1,241			
H 3	933.61	37.11	16.35	5.74	3.00	1.82	36.92	1,164			
H 4	899.51	34.58	8.14	5.05	1.79	0.52	28.28	894			
H 5	1494.22	49.74	16.30	6.16	0.90	0.37	60.14	1,897			
H 6	332.92	18.99	6.53	1.91	0.66	0.14	18.93	597			
H 7	734.10	39.89	7.75	3.84	1.81	1.43	28.75	907			
H 8	937.18	27.85	8.93	4.70	2.67	1.62	32.73	1,035			
H 9				欠	測						
H 10	522.89	33.77	12.10	7.88	2.84	2.53	29.82	940			
H 11	1686.80	35.31	10.97	4.40	1.41	1.31	59.45	1,875			
H 12	766.87	22.61	8.77	5.39	3.33	1.59	30.34	960			
H 13		欠	測		7.53	3.43		欠	測		
H 14	1238.04	21.24	8.45	4.84	2.44	2.29	32.83	1,035			
H 15	1836.80	44.34	13.69	8.20	5.07	4.80	48.08	1,516			
H 16		欠	測	38.77	9.24	4.92	3.30		欠	測	
H 17		欠	測		4.25	2.84	2.58		欠	測	
H 18	1257.11	41.59	13.73	7.32	3.33	1.81	欠	測	欠	測	
H 19	2052.30	17.65	7.95	4.58	2.19	1.79	30.29	955			
H 20	480.59	33.00	11.09	6.23	4.02	2.99	28.64	906			
H 21	73.45	15.70	7.48	4.96	3.59	2.82	13.22	417			
H 22	508.08	37.55	14.32	6.82	4.80	4.42	29.79	940			
H 23	1116.96	37.72	8.47	4.54	1.56	1.36	40.40	1,274			
H 24	603.50	40.22	13.90	7.55	4.63	4.34	43.10	1,363			
H 25	439.09	18.41	8.62	6.10	2.61	0.12	21.49	678			
H 26	1253.57	42.78	12.76	7.85	6.14	5.03	44.35	1,399			
H 27	585.48	42.64	13.96	8.01	5.94	5.25	35.05	1,105			
H 28	1398.27	42.44	16.42	11.33	7.10	6.61	36.39	1,151			
H 29	850.26	36.33	11.04	7.23	5.18	4.27	30.06	948			
H 30	1207.69	40.95	15.23	6.41	5.27	4.49	43.32	1,366			
R 1	395.38		欠	測	6.42	4.59	3.28		欠	測	
R 2	1049.78	25.84		欠	測	4.78	3.04	2.35		欠	測
R 3	323.02	31.46	10.08	4.33	2.05	1.60	28.33	893			
近10ヶ年	第1位	323.02	18.41	8.62	4.33	2.05	0.12	21.49	678		
	平均	810.60	35.67	12.75	7.00	4.66	3.73	35.26	1,113		
近20ヶ年	第2位	323.02	17.65	7.95	4.33	2.05	1.36	21.49	678		
	平均	926.08	33.81	11.55	6.33	3.98	3.19	33.69	1,063		
近30ヶ年	第3位	332.92	18.41	7.75	4.25	1.41	0.37	21.49	678		
	平均	924.76	33.51	11.04	5.98	3.40	2.62	34.51	1,089		
近40ヶ年	第4位	380.04	18.99	7.95	4.33	1.41	0.52	25.74	812		
	平均	931.16	33.24	12.39	6.19	3.22	2.40	34.53	1,090		
近50ヶ年	第5位	349.54	19.95	8.14	4.40	1.33	0.46	21.49	678		
	平均	886.51	33.03	13.73	6.65	3.00	2.12	33.68	1,063		
近60ヶ年	第6位	349.54	20.34	8.14	4.25	0.90	0.22	21.38	674		
	平均	892.62	32.88	14.17	6.56	2.77	1.90	33.38	1,053		
近67ヶ年	第7位	349.54	20.34	8.45	4.33	1.07	0.22	21.38	674		
	平均	897.71	32.90	14.76	6.95	2.81	1.89	33.39	1,054		

注）最大は日流量最大、最小は日流量最小を示す。（単位：m³/s）

6-2 河川水質

(1) 水質現状と類型指定

小丸川水系における水質汚濁に係わる環境基準の類型指定は、以下に示すとおりである。

小丸川は山間部を出て木城町、高鍋町を東流し河口付近で宮田川を合流している。本川の流域では水質に負荷を与えるような産業もあまりなく、上流域では市街化も進んでいないことから水質は清浄である。高城橋地点、高鍋大橋地点及び宮田川水門地点の水質を、BOD75%値でみると、近年は環境基準を満足している。

表 6-2 小丸川における環境基準類型状況

水域の範囲	類型	達成期間	達成のための施策	指定年月日	備考
小丸川高城橋より上流	AA	ロ	1. 下水道整備 2. 工場排水規制	昭和 49 年 4 月 30 日 (宮崎県)	
小丸川高城橋より下流	A	イ			
宮田川古港橋より上流	A	ロ			
宮田川古港橋より下流	B	ハ			

河川類型値：A=BOD濃度 2mg/l 以下 B=BOD濃度 3mg/l 以下 C=BOD濃度 5mg/l 以下

達成期間：イ=直ちに達成 ロ=5 年以内に可及的すみやかに達成 ハ=5 年を超える期間で可及的速やかに達成



図 6-1 小丸川水系環境基準類型指定状況図

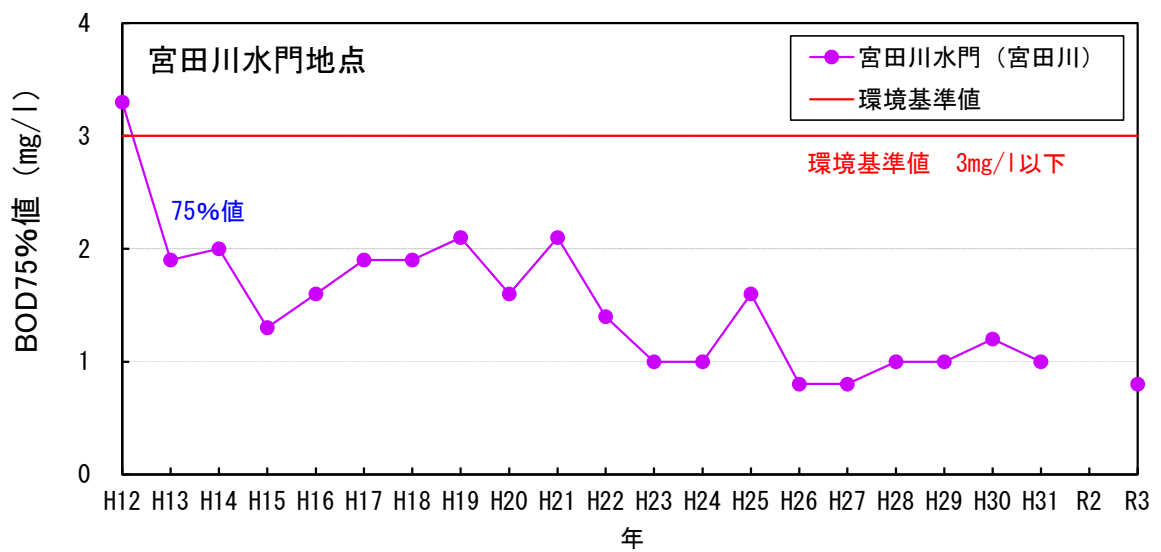
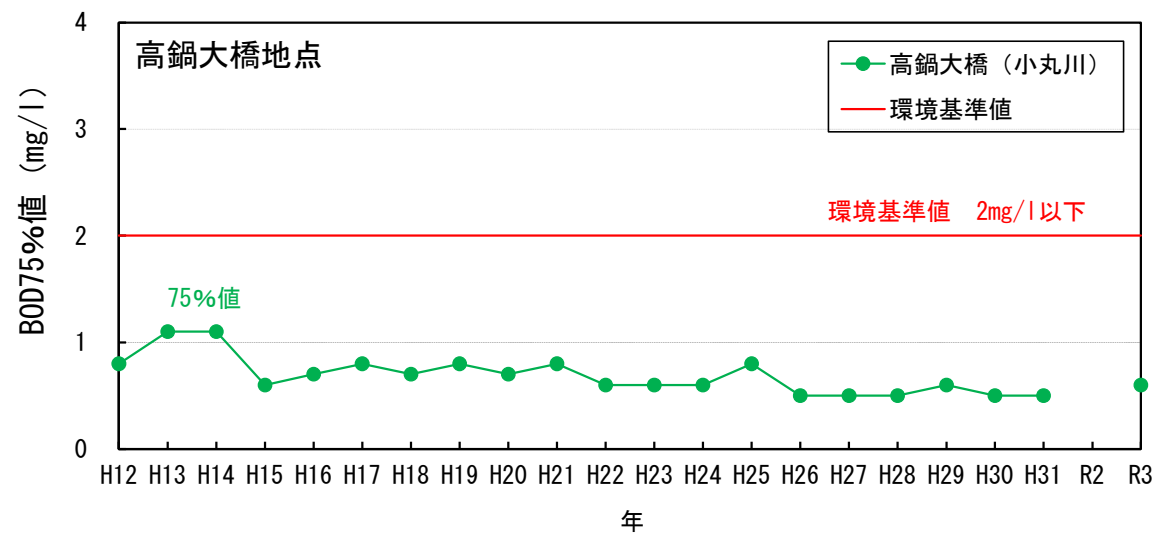
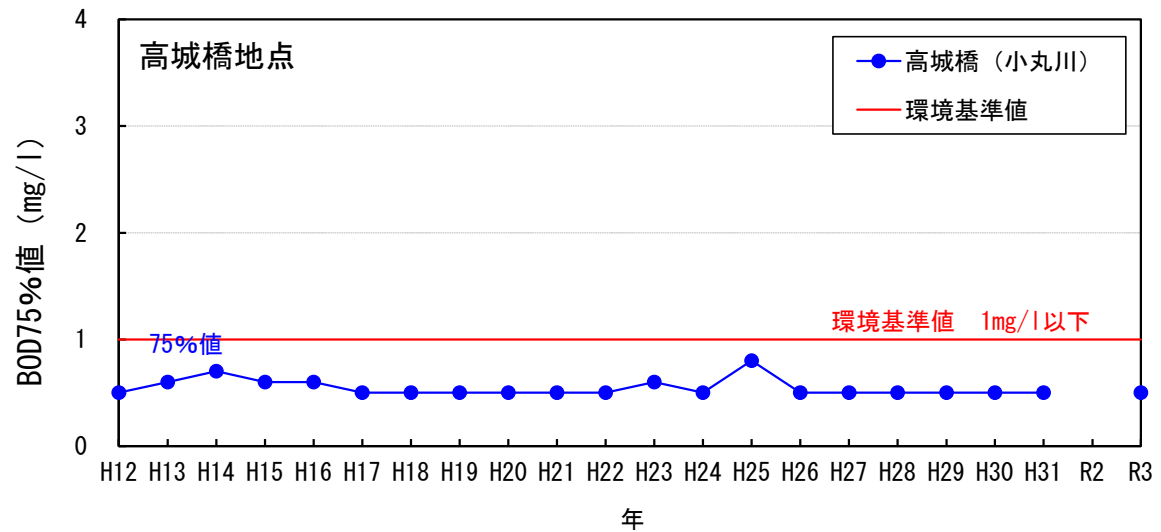


図 6-2 水質観測地点の BOD75%値経年変化図

(出典：国土交通省
宮崎河川国道事務所)

(2) 下水道整備

宮田川は高鍋町の市街部を貫流し家庭排水等の流入により、下流部の水質は平成 8 年頃まで BOD75%値で 5.0mg/ℓを超える年が続いていた。

高鍋町が昭和 56 年度に公共下水道整備を着手し、平成 8 年 3 月に公共下水道浄化センターが整備されるとともに、下水道普及率も向上していることから、水質が改善しているものと考えられる。

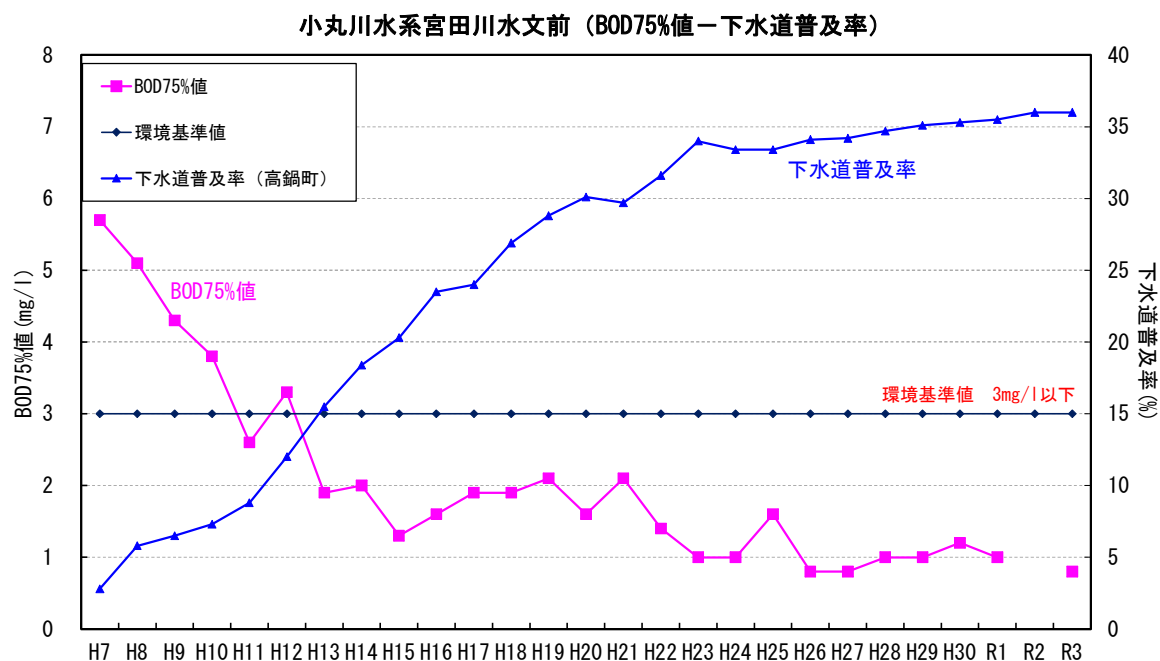


図 6-3 小丸川水系宮田川水門前の水質と下水道普及率

(出典：国土交通省
宮崎河川国道事務所)

第7章 河川空間の利用状況

7-1 河川の利用状況

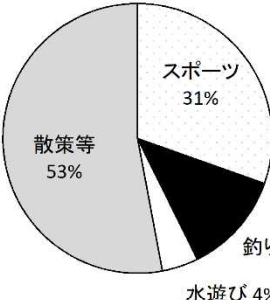
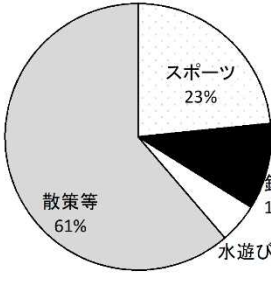
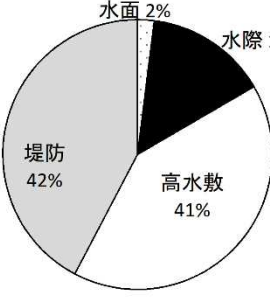
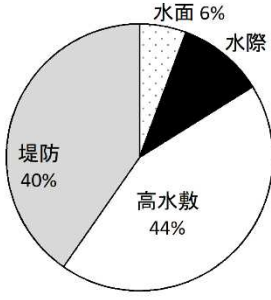
(1) 河川空間の利用状況

小丸川の平成31年度（令和元年度）の年間河川空間利用者総数（推計）は、約12万4千人である。沿川市町村人口からみた年間平均利用回数は4.8回/人となっている。

平成26年度と比較して、年間推計利用者総数（推計）は約13万人の減少となった。これは、各調査実施日での利用者の減少の影響（調査日が悪天候のため）と考えられる。

利用形態別では、「散策等」が61%と最も多く、次いで「スポーツ」の23%、「釣り」11%、「水遊び」5%であった。利用場所別では、「高水敷」が44%と最も多く、次いで「堤防」の40%、「水際」10%、「水面」6%であった。

表 7-1 年間河川空間利用状況

区分	項目	年間推計値(千人)		利用状況の割合	
		平成26年度	平成31年度	平成26年度	平成31年度
利用形態別	スポーツ 	77	29		
	釣り 	31	13		
	水遊び 	11	6		
	散策等 	134	76		
	合計	253	124		
利用場所別	水面 	5	7		
	水際 	37	13		
	高水敷 	104	54		
	堤防 	107	50		
	合計	253	124		

出典：平成31年度 大淀川・小丸川空間利用実態調査業務報告書より

(2) 空間利用の概況

① 小丸川上流部

小丸川上流では、川原ダム、松尾ダム、渡川ダムの湖内でコイ・ヘラブナ釣りを、鬼神野地区では秋にヤマメ釣りを楽しむ人が多い。また、小丸川本川沿いに鬼神野溶岩溪谷キャンプ場、支川板谷川に祇園の滝キャンプ場、渡川に渡川地区運動公園等が整備され地域の人々に利用されている。

川原自然公園は、昭和 46 年に自然とのふれあい施設として開園し、県内でも規模の大きなキャンプ場として、小・中・高校生の教育キャンプ、カヌー体験教室などが行われている。



② 小丸川中流部・下流部

中流部・下流部の高水敷には、4 地区にスポーツ広場が整備されており、サッカーやラグビー、ゲートボールなどのスポーツのほか、遠足やピクニックなどのレクリエーションに広く利用されている。

堤防や高水敷の広場等は、地域住民の多くの人がジョギングや散歩等で日常的に利用している。また、河口付近では釣り人も比較的多い。

高城橋付近の高水敷は、親水性を考慮した環境整備（緩やかな階段護岸等）が行われ、水遊びや釣りのほか、環境学習の場としても利用されている。また、高水敷は散策路が整備され、マラソン大会等も毎年開催されている。



図 7-2 小丸川河川環境整備箇所位置図



【サッカー大会（スポーツ広場）】



【ゲートボール（スポーツ広場）】



【魚釣り（河口付近）】



【散策（堤防）】



【水遊び（高城橋付近）】



【マラソン大会（高城橋付近）】

（写真：国土交通省
宮崎河川国道事務所）

③ 宮田川

宮田川には河川敷はなく、周辺住民が堤防沿いの一部を通勤・通学、ジョギングや散歩等に利用している。

第8章 河道特性

小丸川はその源を宮崎県東臼杵郡椎葉村三方岳（標高 1,479m）に発し、山間部を流下し渡川等を合わせながら木城町の平野部を貫流し、下流域において切原川を合流して日向灘に注ぐ、幹川流路延長 75 km、流域面積 474km² の一級河川である。

小丸川の流域は、宮崎県の中央部に位置し、関係市町村数は 2 市 4 町 1 村におよび、下流部の狭い平野部には高鍋町などの主要都市を有している。流域の土地利用は、山地が約 87%、水田畑地等が約 10%、宅地等が約 3%となっている。

流域の地形は、三方岳や清水岳などの日向山地のほぼ中央部を源に尾鈴山と空野山に挟まれた急峻な溪谷が形成され、下流部には狭い沖積平野が広がっている。

河床勾配は、上流部で約 1/100 程度、中流部は約 1/600 程度と急流河川の様相を呈し、狭い平野部である下流部は約 1/2000 程度と比較的緩勾配となっているものの全体的に急流河川の様相を呈している。

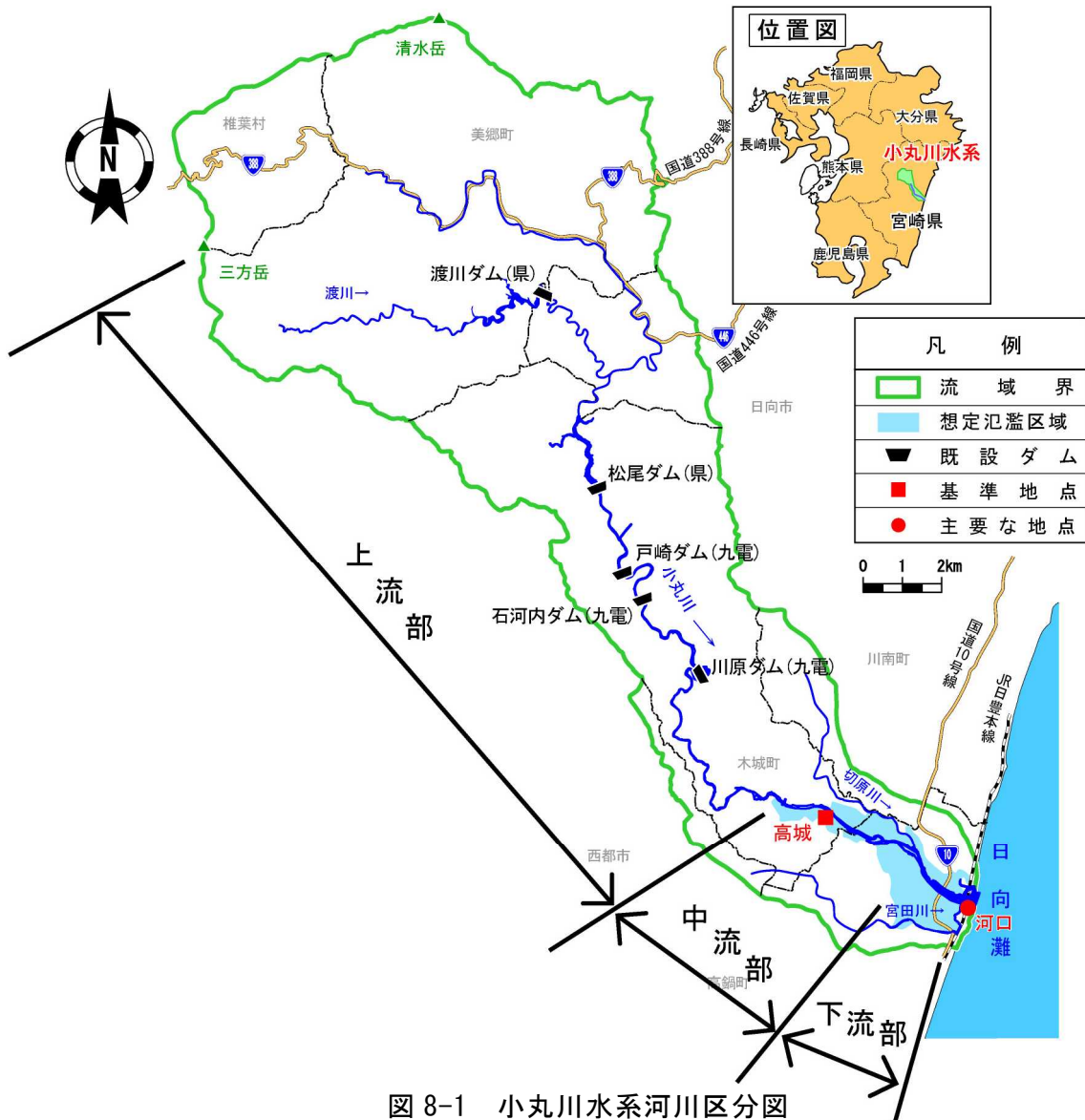


図 8-1 小丸川水系河川区分図

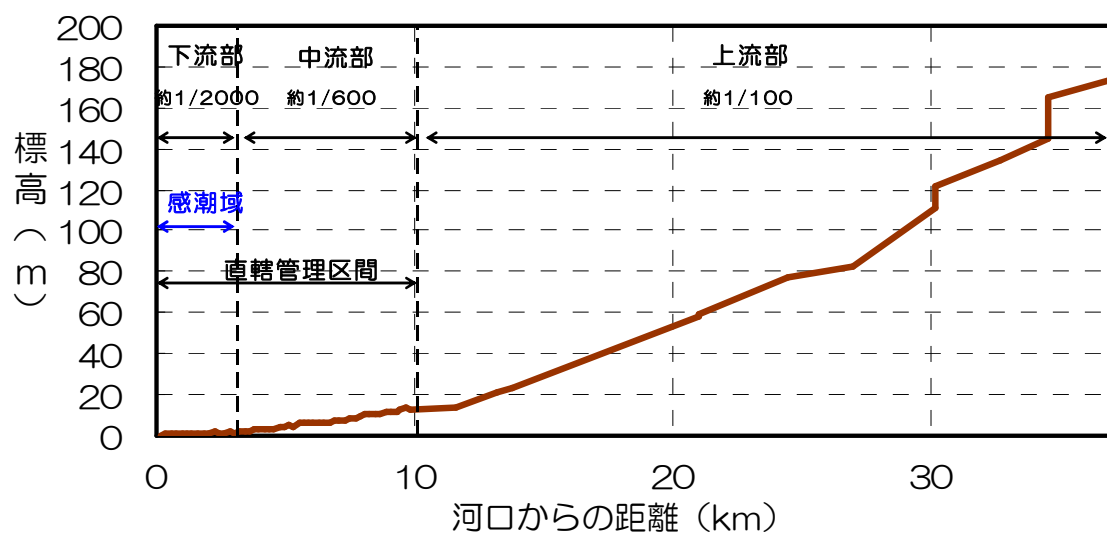


図 8-2 小丸川水系平均河床勾配

(1) 上流部の河道特性

8-2

上流部は、侵食の進んだ急峻な渓谷をなし、河岸は岩盤が露出し、山間狭窄部の中を流下している。流入する支川は又江の原川、水清谷川、渡川、板谷川等と少なく、渡川ダム、松尾ダム、戸崎ダム、石河内ダム、川原ダムの5ダムの建設により湛水域が確保され、主に発電用水として利用されている。

河道幅は狭く、高水敷のない単断面形状を呈し、河床勾配は1/100程度、河床材料は巨石、巨礫により形成され、セグメントはMである。



【小丸川上流部（渡川発電所付近）】

小丸川上流部の河川沿いは、山付き区間と小規模な河岸段丘がみられ、河川沿いに小規模な集落が点在している。



【小丸川上流部（松尾ダム付近）】

山間地に建設された松尾ダムを流下し、下流には戸崎ダム、川原ダム、石河内ダムが建設されている。河道は山間溪流の形状を呈している。

写真

小丸川上流部（渡川発電所、松尾ダム付近）

(写真：国土交通省 宮崎河川国道事務所)



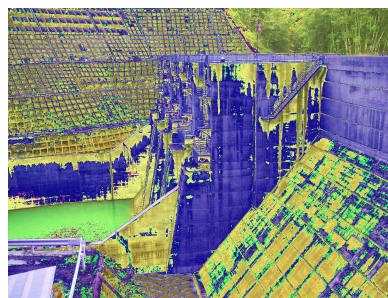
渡川ダム



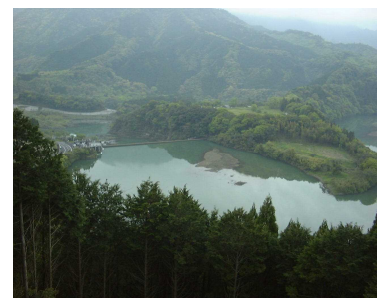
松尾ダム



戸崎ダム



石河内ダム



川原ダム

写真 8-1

小丸川上流域のダム群

(写真：国土交通省 宮崎河川国道事務所)

(2) 中流部の河道特性

中流部は、平野部を緩やかに蛇行しながら流下する区間であり、木城町川原ダム下流の比木の瀬周辺から河床勾配は緩やかになり、急に流速が減じて堆積作用が顕著となっている。また、竹嶋橋下流付近にはこれまでの川の流れの変化により生じた河跡湖が左右岸の高水敷に点在している。

河道の川幅は 150m～300m 程度で、河床勾配は約 1/600 程度、河床材料は礫、巨礫により形成されセグメント 2-1 である。



【小丸川中流部（比木橋付近：10.2km）】
山間地より解放され河岸段丘の趣を呈する。
扇状地形の中を緩やかに蛇行する河川形状を呈している。



【小丸川中流部（高城橋下流付近：7.6km）】
河道は大きく広がり、緩やかに流下している。
広い高水敷は採草地として利用されている。

（写真：国土交通省 宮崎河川国道事務所）

写真 8-2 小丸川中流部（比木橋付近、高城橋下流付近）

(3) 下流部の河道特性

下流部は、高鍋町の市街地中央部を流下し、小丸大橋より下流は感潮区間で日向灘(太平洋)に注いでいる。

河道の川幅は 400m程度で、河床勾配は約 1/2,000 で、河床材料は砂、砂礫で構成されセグメント 2-1 の区間である。河床部には砂礫が堆積し交互砂州の形成と、河口部には河口砂州の形成がみられる。

河川改修により高水敷が両岸に整備され、一部は市民憩いのスポーツ広場として利用されている。



【小丸川下流部（河口付近：0.0km）】
小丸川下流部は、高鍋平野の水田地帯と左岸市街地部の間を緩やかに流下している。
河口部は、太平洋に注いでいる。

(写真：国土交通省
宮崎河川国道事務所)

写真 8-3 小丸川下流部（河口付近）



写真 8-4 高鍋大橋より小丸川下流を望む



写真 8-5 宮田川より小丸川河口を望む

(写真：国土交通省宮崎河川国道事務所)

第9章 河川管理の現状

9-1 河川管理区間

小丸川は、幹川流路延長 10.2km の一級河川であり、本川の河口より 10.2km 区間と、宮田川 2.5km の合計 12.7km を国が管理している。

表 9 - 1 小丸川水系の直轄管理区間

河川名	上 流 端	下流端	区間延長 (km)
小丸川	左岸：宮崎県児湯郡木城町大字高城字山塚原 4870 番の 4 地先 右岸：宮崎県児湯郡木城町大字椎木字山宮 1267 番地先	海に至る	10.2
宮田川	左岸：宮崎県児湯郡高鍋町大字上江字市の山 7071 番の 1 地先 右岸：宮崎県児湯郡高鍋町大字上江字市の山 6828 番の 4 地先	小丸川 合流点	2.5
合 計			12.7



図 9 - 1 小丸川水系の直轄管理区間

9-2 河川管理施設

小丸川は、堤防の整備率が約 9 割と高いが、築堤年次が古い堤防は材料が粗い粒径で構成されていること、嵩上げ・拡幅等の補強により堤体材料が不均一で浸透による堤防破壊が懸念されること、旧川跡の築堤箇所は基盤漏水による堤防の破壊が懸念されることを踏まえ、堤防の安全性を確保するための質的強化が必要である。

また、水門、樋門等の河川管理施設は老朽化の進んだ施設が多いため、堤防も含めた河川管理施設に対して、定期的な巡視・点検を実施し、必要に応じて維持修繕、応急対策等の維持管理を行っている。

表 9 - 2 国管理区間堤防整備状況

大臣管理区間 延長 (km)	施行令 2 条 7 号 指定区間 (km)	堤防延長(km)					
		完成堤防	暫定堤防	未施工 区間	小計	不要区間	合計
12.7	0.0	18.0	0.6	0.2	18.8	4.5	23.3

(出典：河川データブック 2022)

表 9 - 3 国管理区間の主要な河川管理施設整備状況

堰	床止め	排水機場	樋門樋管	陸閘門	水門	合計
0	3	1	15	4	2	25

(出典：国土交通省 宮崎河川国道事務所)

9-3 水防体制

9-3-1 河川情報の概要

小丸川では、流域内にテレメータ雨量観測所、テレメータ水位観測所を設置し、迅速に情報を収集するとともに、これらのデータを用いて河川の水位予測等を行い、流域住民の防災活動等に活用している。

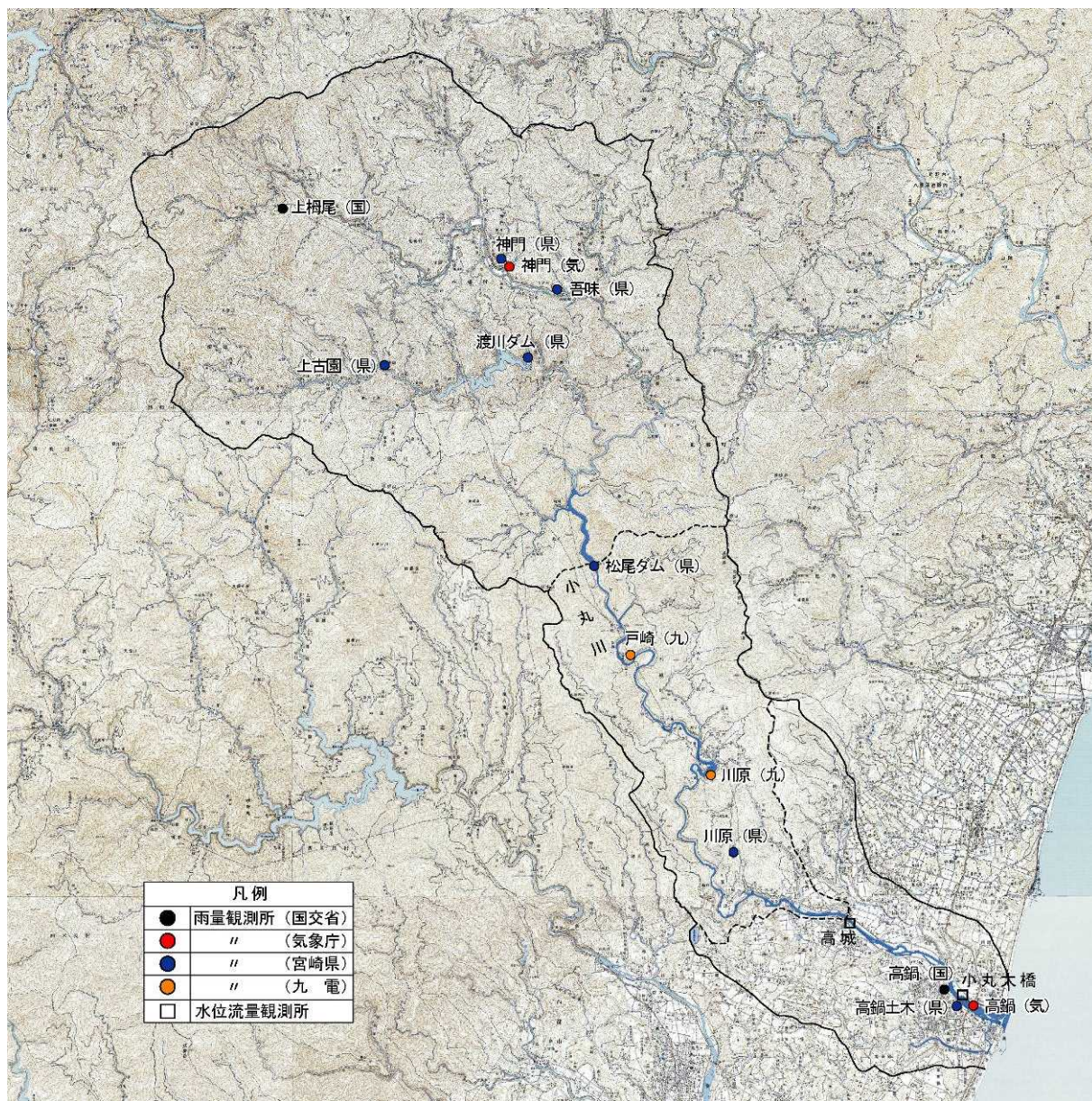


図 9-2 小丸川水系雨量、水位観測所位置図

9-3-2 水防警報の概要

小丸川では、洪水による災害が起こる恐れがある場合に、各水位観測所の水位をもとに水防管理者に対し、河川の巡視や災害の発生防止のための水防活動が迅速かつ、的確に行われるよう水防警報を発令している。

表 9 - 4 水防警報対象観測所

観測所名	氾濫危険 水位 (m)	避難判断 水位 (m)	氾濫注意 水位 (m)	水防団待機 水位 (m)	摘 要
小丸大橋	5.50m	5.00m	3.50m	3.00m	

9-3-3 洪水予報

小丸川は、平成 12 年 3 月より水防法第 10 条及び気象業務法第 14 条に基づき洪水予報指定河川となり、宮崎气象台と共同で洪水予報の発表を行い、流域への適切な情報提供を実施している。

表 9 - 5 小丸川水系洪水予報実施区域

水系名	河川名	上流端	下流端	洪水予報基準地点
小丸川	小丸川	左岸 ： 宮崎県児湯郡木城町大字 高城字山塚原 4870 番の 4 地先 右岸 ： 宮崎県児湯郡木城町大字 椎木字山宮 1267 番地先	海まで	小丸大橋

9-4 危機管理の取り組み

9-4-1 水防関係団体との連携

「小丸川における水防体制の強化を図るため、水防に関する情報交換を積極的に行うことにより、洪水時等における迅速、的確な水防を遂行すること」を目的とし、小丸川流域の県、市町、警察、消防及び国土交通省によって構成される「小丸川水防関係連絡会」を開催している。



写真 9 - 1 水防演習

(写真：国土交通省 宮崎河川国道事務所)

9-4-2 洪水危機管理の取り組み

平常時から流域住民の洪水に対する危機管理意識形成を図るとともに、洪水発生時の被害を最小限に抑えるため、浸水想定区域図を公表、また各市町では洪水ハザードマップを作成し、水防計画、避難計画の策定支援等について関係機関や地域住民と連携して推進している。

また、平成 27 年（2015 年）9 月関東・東北豪雨を受けて、平成 27 年（2015 年）12 月に策定された「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づき、平成 28 年（2016 年）5 月に水防災意識社会再構築協議会（小丸川）を設置し、国、県、町が連携・協力して、減災のための目標を共有し、ハード対策とソフト対策を一体的・計画的に推進している。

さらに、気候変動の影響による水害の頻発化・激甚化を踏まえ、令和 2 年（2020 年）9 月に小丸川水系流域治水協議会を設立し、流域の関係機関、自治体と連携して令和 3 年（2021 年）3 月に「小丸川水系流域治水プロジェクト」を策定・公表した。今後は、河道掘削や堤防整備等の河川整備に加え、流域全体のあらゆる関係者が協働して水害を軽減させる治水対策を推進するため、関係者の合意形成を推進する取組の推進や、自治体等が実施する取組の支援を行い、流域における浸水被害の軽減を図ることとしている。



【水防災意識社会再構築協議会】



【流域治水協議会】

写真 9 - 2 協議会開催の様子

第 10 章 地域との連携

10-1 地域連携を巡る動き

小丸川においては、散策やスポーツ利用など河川の利用が非常に高く、生活の一部として広く利用されており、河川に対する想いは大きい。

このため、小丸川の河川清掃やイベント等の地域住民の自主的な活動に対しては、安全で多数の地域住民が参加できるようにこれらの活動に必要なとなる河川情報を提供するなど支援を行っている。

また、河川整備、河川利用及び河川環境に関する地域の要望を把握し、河川愛護思想の普及・啓発、河川の適正な維持管理等を目的として、河川愛護モニターの設置、清掃活動、ゴミマップの作成などの支援を行っており、住民参加による河川管理を推進している。



写真 10-1 河川清掃活動

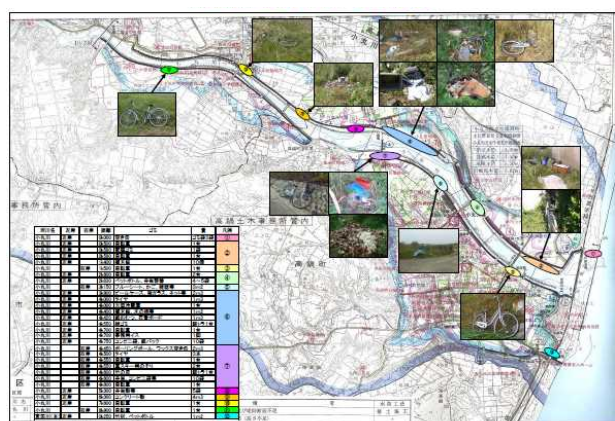


写真 10-2 小丸川ゴミマップの作成



写真 10-3 水生生物調査

(写真：国土交通省 宮崎河川国道事務所)



水辺の自然活動



小丸川水防訓練

(写真：国土交通省 宮崎河川国道事務所)